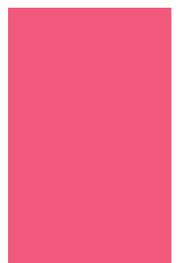


地方議会が進める 主権者教育事例集

地方議会が進める主権者教育事例集

地方議会が進める
主権者教育事例集



全国都道府県議会議長会
全国市議会議長会
全国町村議会議長会

全国都道府県議会議長会
全国市議会議長会
全国町村議会議長会



地方議会が進める 主権者教育事例集



Contents

事例を掲載した 議会



04 未来の地域を担う次世代を育てる
三議長会会長ごあいさつ

都道府県の事例

出前講座

中学生を対象とした取組

08 栃木県議会…～とちぎの未来を考える～栃木県議会 県政ミーティング

高校生(特別支援学校含む)を対象とした取組

10 群馬県議会…GACHi^{ガチ}高校生^{かける}×県議会議員～政治を知らなきゃソンをする!～
12 富山県議会…議員による高校生への「出前講座」
※特別支援学校

14 大阪府議会…大阪府議会出前授業

16 宮崎県議会…議員講座「こんにちは! 県議会です」※特別支援学校

18 沖縄県議会…沖縄県議会高校等出前講座

大学生を対象とした取組

20 静岡県議会…大学生との意見交換会

模擬議会

小学生を対象とした取組

22 岩手県議会…親子県議会教室

高校生を対象とした取組

24 岡山県議会…岡山県高校生議会

26 山口県議会…やまぐち高校生県議会

市の事例

28 北海道登別市議会…議長による特別講話授業

30 長野県伊那市議会…市内高校生の本会議傍聴と全議員との意見交換

32 山梨県甲州市議会…市内全小中学校での出前キャリア教育授業

34 茨城県取手市議会…市立中学校との協働事業「議会を知り・未来を語る」

36 静岡県湖西市議会…高校生との意見交換会(意見交換から請願提出へ)

38 三重県四日市市議会…出前型シティ・ミーティング「ワイ!ワイ!GIKAI」

40 兵庫県神戸市会…高等学校と連携した主権者教育の実践

42 熊本県熊本市議会…若い世代との意見交換会(ウェブアンケートの活用)

町村の事例

44 岩手県山田町議会…ふるさと探究高校生議会

46 宮城県大和町議会…これからの大和町議会のあり方プロジェクト

48 埼玉県小川町議会…町内全小中学校へ議員による出前講座

50 東京都新島村議会…小学生議会体験・高校生新島研究

52 愛媛県鬼北町議会…中学生の模擬議会見学会を開催

54 おわりに

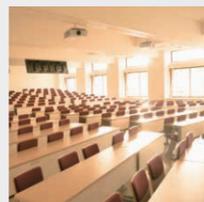
こどもたちの記憶に残る主権者教育を

未来の地域を担う

次世代を育てる



三議長会会長ごあいさつ



雨晴海岸から望む立山連峰



全国都道府県議会議長会 会長
富山県議会 議長

やまもと とおる
山本 徹

高校生を中心とした主権者教育の推進は、平成28年6月に選挙権年齢が18歳に引き下げられたことが大きな契機となりました。

主権者教育は、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくものとして、子どもたちが地域の課題について議論する中で民主主義や地方自治について学ぶ機会にもなっています。

地方議会は、民主主義や地方自治の根幹をなす存在ですが、統一地方選挙の投票率の低下に見られるように関心や理解が薄れつつあるという指摘も多く、小規模な市町村では議員のなり手不足が深刻化しています。加えて、議員の性別や年齢構成の偏りも課題となっています。

また、自治会、町内会における加入率の低下など住民の自治意識の希薄化が指摘されており、議会に対する関心の低下と相まって、さらなる自治意識の低下につながるおそれがあります。

こうした中、議会や議員の重要性が改めて認識されるよう令和5年4月に地方自治法が改正され、地方議会の役割及び議員の職務等が明確化されました。

この改正を踏まえ、三議長会では、議会への関心・理解を高め、多様な人材の参画を促すために、主権者教育を国民運動として進めており、その一つとして、今回、議会が主体的に行う主権者教育の取組をまとめた事例集を発行することとしました。

子どもたちに民主主義や地方自治の重要性を感じてもらえるよう、今こそ主権者教育にお取り組みいただくことを期待しております。



全国市議会議長会 会長
兵庫県神戸市会議長

ぼう やすなが
坊 恭寿



社会経済の急速な構造変化を背景に、住民の代表である地方議会には、多様化する民意の集約と行政への反映が期待されています。若者や女性、会社員など多様な人材の地方議会への参画を促進し、議会を活性化することは、多くの議会に共通の緊要な課題です。

このような中、令和5年4月の地方自治法改正により、地方公共団体の重要な意思決定を行う地方議会の役割や議員の職務等が明文化されましたが、同年春の統一地方選挙において、女性議員の躍進が見られた一方、投票率の低下や無投票当選者の増加など、議会への関心の低下や議員のなり手不足が深刻化しています。

地方議会に対する住民の理解と関心を深め、多様な人材の地方議会への参画促進の一助とするため、三議長会が一体となって主権者教育を一層推進していきたいと考えております。

中でも、地域の将来を担う子どもたちに対する主権者教育の取組は重要であり、その際には、議員自らが積極的に携わり、議会・議員の活動を真剣に伝えていくことにより、子どもたちが「地域をよくしたい」という思いを抱き、議員を目指す子どもが一人でも多く出てくることを期待されます。

「主権者教育事例集」は、全国の地方議会において、子どもたちに対する主権者教育に主体的に取り組んできた具体的な事例をまとめたものであり、出前授業や模擬議会、政策提言など多様な事例を紹介しております。

各議会におかれては、この事例集も参考にしながら、地域の実情を踏まえ、創意工夫を凝らした主権者教育に積極的に取り組んでいただき、未来を切り拓く子どもたちにとって、明日の地方自治・地方議会を担っていく一つの契機となることを切に希望いたします。



全国町村議会議長会 会長
北海道厚真町会議長

わたべ たかき
渡部 孝樹



今、多くの町村では、議員のなり手不足という大きな課題に直面しています。

この背景には、人口減少や少子高齢化が進む我が国の社会情勢もさることながら、住民の議会活動に対する関心の低下が大きく影響しているものと考えられます。

近年、町村議会選挙における選挙公営の拡大や議員の兼業禁止の緩和といった立候補環境の改善がなされ、政治分野における男女共同参画推進法に基づく措置が施されるなど立候補に向けた障壁が除去されつつあるものの、第20回統一地方選挙(令和5年4月実施)では、投票率は過去最低を更新し、無投票・定数割れ議会が全体の3割を超える事態となりました。

もはや、議員のなり手不足はどの町村議会にとっても他人事ではなく、議会のみならず町村全体の問題であり、将来的には地方自治や民主主義の危機に繋がる問題であると指摘されています。

こうした危機が現実化する前に、あらゆる方面から対応策を講じていかなければなりません。その処方箋のひとつとして、それぞれの町村議会が、執行機関、学校や地域の様々な主体と連携して、実情に合った主権者教育を推進することが、将来の議員のなり手を養成し、ひいては、地域の発展に寄与するものと考えられています。

「愛郷無限」私は、故郷をこよなく愛する思いが可能性の扉を開き、難局を乗り切る力を与えてくれるものと信じています。主権者教育を通じて、全国津々浦々の地方議会が、将来を担う子供たちの故郷を愛する心を育み、地方自治の精神を後世へと伝承することを願ってやみません。



栃木県議会

～とちぎの未来を考える～栃木県議会 県政ミーティング

議会データ
(令和5年7月)

人口:1,897,361人
議員定数:50名、現議員数:50名(男性41名、女性9名)
事務局職員数:37名
議会費:831,495<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 県立高校及び町立中学校(各1校)に各6名(正副議長及び異なる会派の議員4名)が訪問
- 生徒の学年や学習状況に合わせて、分かりやすい説明となるよう工夫
- 中学校のミーティングでは生徒、議員がタブレット端末を使用し、ペーパーレスで実施
- 当日のミーティングをより効果の高いものとするため、学校に議会についての事前学習をお願い

開催内容(壬生町立壬生中学校の例)

日時	令和5年11月9日(木)13:35~14:25
場所	栃木県下都賀郡壬生町立壬生中学校
主催等	主催:議会(企画、教育委員会や開催校との連絡調整、会場設営、当日の運営) 共催等:教育委員会(企画内容に関する助言、開催校の調整) 開催校(企画内容に対する助言、事前準備・会場設営、開催に向けた生徒指導)
参加者	中学2年生…約200名 栃木県議会議員…6名(正副議長及び異なる会派の議員4名)
日程	①開会 ②プログラム 1.正副議長、出席議員自己紹介 2.県議会の役割・取組の紹介 3.質疑応答 4.テーマ別意見交換 テーマ1 とちぎの未来のためにできること テーマ2 議会や政治への関心を高めるためには 5.議長から生徒へのエール ③生徒代表謝辞 ④閉会 ⑤記念撮影

出前授業をはじめたきっかけ

栃木県誕生150年を迎え「新しいとちぎ」づくりが目指される中、とちぎの未来を担うこどもたちに議会に対する関心を高め、理解を深めてもらうための主権者教育の一環となるよう令和5年10月から実施

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 令和5年8月、正副議長から県民により身近で開かれた県議会を目指す新たな取組を行うことについて提案があり、各派代表者会議において協議(決定)。新たな取組について、全議員に意見照会
- 同年9月、議会運営委員会において、取組について協議(決定)

学校の選定方法

- 県教育委員会と調整

参加議員の選定方法

- 各会派に希望議員を照会

テーマの設定方法

- 参加する生徒に、栃木県の将来や、政治・議会への関心が高まる内容を設定

学校との事前打合せ

- 議会事務局が訪問又はWebによる打合せを行い、次の事項について説明・依頼等
 - ・趣旨及び当日の進行方法の説明・調整
 - ・アンケートの依頼(開催後)

参加議員への事前説明

- 議長主催による事前説明会を開催

参加議員の派遣方法

- 議員派遣(地方自治法第100条第13項)

報道発表

- 開催前:県庁記者クラブに開催について資料提供
- 開催後:終了後、正副議長及び生徒代表者が記者対応

工夫点・留意点

学校において議会についての事前学習を実施

- 当日のミーティングをより効果の高いものとするため、学校において議会についての事前学習を実施

政治的中立性の確保

- 出席議員は、議会を代表して出席するものとして、議会への信頼確保や特定の政党色から離れて主権者教育に資することなどについて認識を共有

生徒の学年や学習状況に合わせて、分かりやすい説明となるよう工夫

- 議長から、こども向けリーフレットをベースに、県議会の役割などを分かりやすく説明



開催後アンケートの実施

- 開催後、生徒へのアンケートを実施し、取組内容の評価の判断に活用



1回の開催に係る経費

- 資料印刷費
- 議員派遣に係る費用

学校での授業科目

- 総合的な学習の時間「地域課題探求学習」

取組の効果

- 終了後の生徒のアンケートでは、開催によって県議会及び県議会議員について、身近に感じることができるようになったとの回答が多くを占めた。
- 参加議員からは、開催に意義を感じたとする意見があった。



群馬県議会

GACHI高校生×県議会議員 ～政治を知らなきゃソンをする!～

※GACHI(ガチ)群馬県議会アクティブ・シチズンシップ・ハイスクールの略

議会データ
(令和5年7月)

人口:1,901,907人
議員定数:50名、現議員数:50名(男性43名、女性7名)
事務局職員数:34名
議会費:1,546,787 千円



POINT / 取組の概要

- 特別支援学校も含めた県内全高校を対象として幅広く実施(令和5年度は17校・1,633人の生徒が参加)
- 議員自身がプロジェクトを用い、クイズをはじめとする参加型の分かりやすい解説を実施
- その場で全ての質問に議員が答えるガチ意見交換を実施

出前授業をはじめたきっかけ

平成29年度に、当時の議長から、議員が高校へ出向く形での事業実施について検討依頼があり、議会基本条例推進委員会に諮って開始した。

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 平成29年5月、議員が高校へ直接赴く形での取組について検討開始。同年6月、議会基本条例推進委員会において実施方針を説明(了承)。同年11月、議会基本条例推進委員会において、派遣議員の選出方針等について協議(了承)。平成30年1月、初回実施

学校の選定方法

- 県内の全ての高校と高等部のある特別支援学校を対象に募集し、応募があった学校を選定

参加議員の選定方法

- 全ての党(会)派の議員が参加。「特別委員割当ての原則」に基づき、党(会)派ごとの派遣人数を算出。学校所在地が選出選挙区となる議員は派遣しないよう調整

テーマの設定方法

- 特にテーマを設けず、生徒からのどんな質問にも答える形で実施

学校との事前打合せ

- 初めて実施する学校には事前に事務局が訪問し、当日の流れ等を説明するとともに、会場の確認等を実施
- 過去に実施している学校については、遅くとも実施1か月前を目安に事前の運営確認事項を送付し、会場や駐車位置、控室等の確認

参加議員への事前説明

- 毎年行っている取組であるため、現在は事前説明は行っていない。

参加議員の派遣方法

- 議員派遣(地方自治法第100条第13項)

報道発表

- 開催前に、当該年の実施予定について県庁記者クラブに資料提供

開催内容(県立高崎高等特別支援学校の例)

日時	令和5年12月18日(月)10:50~11:40
場所	群馬県立高崎高等特別支援学校(高崎市柴崎町1838-2)
主催等	主催:群馬県議会(企画、学校及び議員との連絡調整、議員派遣等の諸手続、当日の運営)
参加者	第2学年…29名 群馬県議会議員…2名 (今回は同一会派からの派遣だが、できるだけ複数の会派議員から参加するよう努めている。)
日程	①あいさつ(議員、校長) ②議員自己紹介 ③ガチ解説&クイズ(議員がプロジェクトを用いて政治や議会の仕組みを説明) ④ガチ意見交換(生徒からの質問に議員がガチで回答) ⑤感想発表(生徒、議員の代表)

工夫点・留意点

特別支援学校も含めた県内全高校を対象として実施

- 県内の全ての高校と高等部のある特別支援学校を対象に募集
- 令和5年度は17校(うち特別支援学校6校)で1,633人の生徒が参加

クイズをはじめとする分かりやすい解説を実施

- 議員自らがプロジェクトを用いて政治や議会の仕組みを説明
- 議会クイズ(「議会のアイデアが実行され、高校の教室に設置を決めたものは?」⇒「エアコン」など)も実施し、参加生徒に一齐に○×の札を掲げて答えさせるなど、参加型で分かりやすい解説を実施

丁寧な質疑応答

- 生徒からの質問に、出席議員がその場で回答
- 日頃の議員活動、議員としての考え方、やりがいだけでなく、議員報酬や趣味等の個人的な質問にまで全て回答

開催後アンケートの実施

- 事業実施後、生徒にアンケートを実施し、議会や議員への感想、投票意識の変化などを確認



※令和5年度の感想等

1回の開催に係る経費

- 資料印刷費
- 資料郵送等通信費
- 議員派遣に係る費用

取組の効果

- 実施後の生徒アンケートを見ると、議会や議員を身近に感じるようになったとの回答が9割近くとなっている。そのほかの設問においても、概ね9割の生徒が肯定的に回答しており、事業全体として高評価を得ている。
- 参加する議員も、当該事業については好意的であり、生徒から出された意見・質問を踏まえて一般質問を実施する議員も複数出ている。



富山県議会

議員による高校生への「出前講座」

議会データ
(令和5年7月)

人口:1,008,051人
議員定数:40名、現議員数:40名(男性36名、女性4名)
事務局職員数:34名
議会費:1,062,173<単位:千円>



POINT / 取組の概要

※今回の出前講座について

- 県立南砺福野高等学校に広報編集委員長をはじめ各会派の議員17名が訪問
- 各クラス3名の議員が担任の先生と協力しながらタブレットなどを活用し、生徒との活発な意見交換を実施
- 参加議員も、事前の打合せや事後の振り返りなど、丁寧な準備、検証を実施

開催内容(県立南砺福野高等学校の例)

日時	令和5年12月18日(月) 10:00~13:00(出前講座は10:40~12:30)
場所	富山県立南砺福野高等学校
主催等	主催:議会(広報編集委員会で企画、議員の募集・派遣、当日の運営など) 共催等:開催校(企画内容の検討、事前準備・会場設営、開催に向けた生徒指導)
参加者	高校2年生…184名 富山県議会議員…17名(広報編集委員長ほか3会派の議員16名)
日程	<ol style="list-style-type: none"> ①当日事前打合せ(広報編集委員長挨拶、学校長挨拶ほか) ②出前講座 <ol style="list-style-type: none"> 1.広報編集委員長挨拶・議員自己紹介 2.授業開始 <ul style="list-style-type: none"> ● 第一部:役所や税金について理解を深める <ul style="list-style-type: none"> ・「役所のする仕事」「税金の種類」について班ごとに発表 ・全校生徒から730万円を集めたことを想定し、学校をより良くするための使い道について議員と話し合う。 ● 第二部:集めたお金の使い方の議論 <ul style="list-style-type: none"> ・県民から100億円を集めたことを想定し、自分の住んでいる地域を良くするための使い方を班ごとに発表し、クラス案を決める (議員はクラス案を決める意思決定の方法の議論に重点を置いて説明)。 3.「TOYAMAジャーナル」を活用した議員との意見交換 ③事後振り返り

出前講座をはじめたきっかけ

議会活動の広報について検討する「広報編集委員会」が、高校生への主権者教育を推進するための活動の一つとして出前講座を開始

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 令和3年から広報編集委員会で高校生向けの出前講座の企画をはじめた。
- 議会と高校で協議を重ね、同年10月20日に第1回目の出前講座を新川高校で実施(令和5年度末で8回開催)

学校の選定方法

- 広報編集委員による高校への協力依頼や学校からの要望により実施校を選定

参加議員の選定方法

- 議長及び広報編集委員長から全議員(40名)に参加を呼び掛ける。

テーマの設定方法

- 議員と学校の担当教員などで協議し、学校や地域をよりよくする取組など身近で具体的なイメージができるものを選定

学校との事前打合せ

- 事前に学校と打合せを実施
議員と生徒がグループ形式で意見交換することで、議員をより身近に感じてもらうことに配慮

参加議員への事前説明

- オリエンテーションを実施

参加議員の派遣方法

- 議員派遣(地方自治法第100条第13項)

報道発表等

- 開催前:事前に開催案内をプレスリリース
- 開催後:出前講座終了後、県議会HPに実施状況を掲載

工夫点・留意点

学校に議会についての事前学習をお願い

- 当日の出前講座をより効果の高いものとするため、学校には「税金の種類」や「100億円の使い方」について生徒に事前学習をお願いしている。

参加議員の多様性の確保

- 広報編集委員から幅広く議員に依頼し、特定の会派に偏らないよう超党派の派遣となるようにしている。

現地で丁寧な振り返りを実施

- 出前講座実施後、参加議員や教員で意見交換を実施

開催後アンケートの実施

- 出前講座を開催する前後に生徒へアンケートを実施し、生徒の意識の変化を調査



アンケート(抜粋)を含む出前講座の概要

実施結果等の広報

- 県公式YouTubeを活用し、出前講座の内容を公開

1回の開催に係る経費

- 議員派遣に係る費用

学校での授業科目

- 特別授業など

取組の効果

- 出前講座の前後で、参加生徒の政治や社会問題への関心や投票行動の意識に変化がみられることから、主権者意識の向上に一定の効果が見られた。
- 参加議員からも生徒との意見交換を通じて、政治をどのように考えているか理解できたとの意見もあった。



大阪府議会

大阪府議会出前授業

議会データ
(令和5年7月)

人口:8,774,739人
議員定数:79名、現議員数:79名(男性66名、女性13名)
事務局職員数:60名
議会費:2,699,206<単位:千円>



POINT /

取組の概要

- 府内の高校等を広報委員会正副委員長等4名が訪問
- 授業では議員が議会の役割等を説明した後、生徒との意見交換等を実施
- 授業内容は学校ごとの状況や希望等を考慮し判断
- 選挙の公平性の観点から、学校所在地の選挙区選出議員以外から参加議員を選定

開催内容(府立水都国際中学校・高等学校の例)

日時	令和5年12月22日(金) 13:30~15:30
場所	大阪府立水都国際中学校・高等学校
主催等	主催:議会(企画、当日の運営)
参加者	中学1年~高校3年生...52名 大阪府議会議員...4名(広報委員会正副委員長及び委員(複数会派で構成))
日程	<ol style="list-style-type: none"> ①校長開会あいさつ・議員紹介 ※議員紹介の際、会派名は紹介しない ②3名の議員による講義 <ol style="list-style-type: none"> 1.大阪府議会の役割と仕組み 2.生徒みなさんに関係する条例の紹介 (インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害のない社会づくり条例) 3.政治に関心を持つことや政治参加の重要性 ③生徒からの政策提案(20名の生徒が4グループ(G)を編成し各G発表の後、議員がコメント) (休憩) ④府議会議員との意見交換(生徒から議員への質問・議員から生徒への質問) ⑤生徒代表あいさつ・広報委員会委員長閉会挨拶

工夫点・留意点

学校の実情に応じた授業の実施

- 教育効果の高いプログラムを実施し、議会活動や政治への理解が深まるよう、学校ごとの状況に応じて授業内容や進め方を丁寧に調整
- 支援学校、定時制課程、通信制高校でも出前授業を実施している。
- 学校からオンラインによる出前授業実施の希望があった場合は対応

政治的中立性の確保

- 参加議員に対し、事前に所属政党・会派の主張を出さず、政治的中立性を確保しながら対応いただくよう説明
- 選挙の公平性の観点から、学校所在地の選挙区選出議員以外から参加議員を選定

開催後アンケートの実施

- 開催後に出前授業への理解等のアンケート調査を行い、次回以降の開催の参考としている。

令和5年度予算額

- 資料作成費:55千円
- 郵送費:16千円
- 会場借上費:172千円

学校での授業科目

- 学校独自のプロジェクト学習の時間

取組の効果

- 開催後アンケートでは出前授業への評価が非常に高く、議員の仕事や政治、議会への関心が高まったとする回答が多い。

出前授業をはじめたきっかけ

平成28年6月からの選挙権年齢引き下げを踏まえ、大阪府内の高校生等に政治への関心や政治参加意識を高めてもらうため、府民に開かれた議会をより一層進める取組として平成28年5月から実施

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 平成27年12月に議会運営委員会理事会で検討を開始し、平成28年3月に同理事会で実施を決定

学校の選定方法

- 毎年度、府教育庁を通じて取組の周知とともに申込を募り、原則申込順で学校を選定(対象学年は学校が決定)

参加議員の選定方法

- 広報委員会正副委員長及び委員(複数会派で構成)計4名※学校所在地の選挙区選出議員以外から選定

テーマの設定方法

- 毎回、「議会の役割と仕組み」について説明し、それ以外のテーマについては、学校と相談のうえ、講義内容等を決定

学校との事前打合せ

- 職員が学校に出向き、出前授業の趣旨や希望テーマを聴取するとともに、事前学習の実施等を依頼

参加議員への事前説明

- 進行(講義内容含む)について、議会事務局から説明

参加議員の派遣方法

- 大阪府議会出前授業実施要領に規定

報道発表

- 原則、開催一週間前に開催概要等の報道資料を大阪府政記者会に提供(取材申込があれば対応)



宮崎県議会

議員講座「こんにちは!県議会です」

議会データ
(令和5年7月)

人口:1,042,265人
議員定数:39名、現議員数:39名(男性35名、女性4名)
事務局職員数:31名
議会費:1,119,639<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 毎年度、県内の学校に希望を募り、希望があった学校を議員が訪問し、議会の役割や仕組み等を説明
- 説明は、生徒への問いかけや、学校への新しいPCの配備など身近な話題を交えて行い、生徒の興味・関心を喚起
- 学校側の希望に沿った講座となるよう、参加議員に対し、学校側の講座の応募に至った経緯や期待を事前に伝達
- 学校が授業日程を確保し、応募しやすいよう、募集を前年度の12月から実施

出前授業をはじめたきっかけ

平成27年度に広報委員会で広報内容の見直しを検討する中で、開かれた議会を実現するため、新たに有権者となる年齢層である高校生等を対象とした出前講座を実施することについて検討を始めた。

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 平成27年6月、広報委員会において議会の広報内容の見直しを検討するにあたり、出前講座の実施について検討を開始。平成28年3月、広報委員会で出前講座の実施及び新年度に詳細を協議することを決定。平成28年6月、出前講座の名称及び実施要領を決定するとともに、出前講座の実施を対外的に公表

学校の選定方法

- 毎年度、教育委員会等を通じて県内の学校に希望を募り、希望があった学校を訪問
- 対象学年は、学校内で選定

参加議員の選定方法

- 広報委員会の委員又は同委員会が推薦する議員

テーマの設定方法

- 説明のテーマは、毎回、議会の役割や仕組みとしている。
- 意見交換のテーマは、学校側が希望するテーマとしている。

学校との事前打合せ

- 事務局が学校に出向き、次の事項について資料に基づき説明・依頼等
 - ・ 講座の趣旨及び当日の進行方法、役割分担の確認
 - ・ 講座受講後のアンケートの依頼

参加議員の派遣方法

- 議員派遣(地方自治法第100条第13項)

報道発表

- 開催前:県庁記者クラブへ当日の開催概要を提供
- 開催後:出前講座終了後、県議会HPに実施状況を掲載

開催内容(宮崎県立みやざき中央支援学校の例)

日時	令和6年1月17日(水)13:30~14:30
場所	宮崎県立みやざき中央支援学校(視聴覚室)
主催等	主催:議会(企画、当日の運営等) 共催等:開催校(会場設営、必要となる機材の用意)
参加者	高等部3年生…21名 宮崎県議会議員…2名
日程	<ol style="list-style-type: none"> ①開会 ②学校長あいさつ ③議員自己紹介 <ul style="list-style-type: none"> ● 選挙区、氏名 ● 議員を志した動機 ④説明 <ul style="list-style-type: none"> ● 県議会の役割と仕組み ● 県議会の傍聴方法 ● クイズ ⑤意見交換 ⑥生徒代表あいさつ ⑦閉会



閉会後も生徒が率先して議員に話しかけ、意見交換

工夫点・留意点

学校側の意向に沿った講座の開催

- 開催前には、参加議員に対し、講座での説明内容や運営方法等に加え、学校側の講座の応募に至った経緯や期待(生徒に選挙に行くことの大切さを理解してもらいたいなど)を伝え、学校側の希望に沿った講座となるよう努めている。

生徒の興味・関心をひく説明と政治的中立性への留意

- 生徒の興味・関心をひくため生徒への問いかけを多くしたり、学校へのエレベーターの設置や新しいPCの配備など議会が果たす役割を身近な話題を交えて説明している。
- 政治的中立性を確保する観点から、所属の会派や政党の主張を出さないよう留意している。

開催後アンケートの実施と議員への情報提供

- 開催後は学校に生徒へのアンケートを実施してもらい、その結果を議員に伝え、次回以降の講座に活用している。

学校に対する議員講座の募集時期の前倒し

- 教育委員会に相談の上、学校が授業の都合をつけやすいよう、前年度の12月から1月にかけて議員講座の募集を行っている。

1回の開催に係る経費(予算)

- 資料印刷費:13千円
- 議員派遣に係る費用:15千円

学校での授業科目

- 主権者教育

取組の効果

- 学校から、議員と交流できる貴重な機会であるとの声が聞かれた。
- 講座後の生徒アンケートでは、「議会や議員の活動に興味を持った。」や、「選挙に行くことが大切だと思った。」などの回答があった。



沖縄県議会

沖縄県議会高校等出前講座

議会データ
(令和5年7月)

人口:1,467,519人
議員定数:48名、現議員数:48名(男性41名、女性7名)
事務局職員数:43名
議会費:1,442,123<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 議員による議会や議員の仕事紹介、質疑応答、意見交換等を通して、生徒に議会及び議員への親近感と政治参加意識の醸成を図ることを目的として実施
- 実施する内容は学校の希望を元に決定(グループ形式、講義形式どちらでも実施可能)し、参加議員数も学校の希望に応じて決定
- 議会が自前で作成した教材を、事前に学校に送付

開催内容(県立八重山農林高等学校の例)

日時	令和6年1月25日(木)11:20~13:10
場所	沖縄県立八重山農林高等学校
主催等	主催:議会(企画、開催校との連絡調整、会場設定、当日の運営)
参加者	政治経済科目選択の2年生…約35名 沖縄県議会議員…6名(4つの会派(2名、2名、1名、1名)から参加)
日程	<p>※授業時間2コマを使用して実施 (開講前)校長や担当教員による議員への学校紹介や、学内視察を実施 11:20…開講、代表議員による参加議員紹介 11:25…議員に聞いてみよう!(1回目) 議員による議会や議員の仕事紹介、質疑応答 11:40…みんなで考えよう!(1回目) 生徒が設定したテーマ(沖縄県や地域の課題等)について議員と意見交換</p> <p>12:10…休憩 ※休憩中に議員は別のグループに移動 12:20…議員に聞いてみよう!(2回目) 12:25…みんなで考えよう!(2回目) 13:00…代表議員からのあいさつ及び配付教材を使った県議会参加案内 生徒代表あいさつ 記念写真撮影 13:10…閉講</p>

6グループに分かれて実施し、各グループに議員を1人配置

出前授業をはじめたきっかけ

平成29年7月、議会改革推進会議の協議事項「県民参加の議会運営」の取組として、県外の事例を参考に協議した結果、出前講座の実施を検討することとなった。

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 議会改革推進会議において平成29年9月から出前講座について検討を開始し、目的やプログラムについて会議内で複数回の協議を重ね、平成31年1月に初めて実施

学校の選定方法

- 県立学校は教育長を通じて、私立高校等は執行部所管課を通じて、国立高等専門学校については直接募集案内を行い、申込みがあった学校で実施(令和5年度は4校、令和4年度は3校で実施)
- 対象学年等は、学校側で選定

参加議員の選定方法

- 参加議員数は学校の希望に応じて決定し、会派が偏らないよう所属議員数の比率で会派ごとの人数を算出した上で、各会派等で選定

テーマの設定方法

- 生徒自らテーマを設定(県や地域の課題等)し、学校から事前に議会事務局に連絡

学校との事前打合せ

- 議会事務局が、初回はweb等で出前講座の希望内容及び参加生徒についてヒアリングするとともに、実施までのスケジュールを確認し、2回目以降は主にメールで打合せ

参加議員への事前説明

- 実施日の概ね1週間前に、当日の流れや意見交換テーマ等について議会事務局から説明

参加議員の派遣方法

- 議員派遣(地方自治法第100条第13項)

報道発表

- 開催前:県議会記者クラブへ当日の開催概要を提供
- 開催後:休憩時間や終了後に、記者が生徒や事務局に取材

工夫点・留意点

生徒が主体的に参加できるよう工夫

- 意見交換のテーマは生徒自らが設定
- 生徒が発言しやすいよう、生徒と議員の距離間にも配慮して会場を設定

生徒に配付する教材(冊子)を、議会が自前で作成

- 教材の基本的な内容は、沖縄県議会の紹介、沖縄県議会議員の紹介、質疑応答用ページ、意見交換用のページ、請願(陳情)書の作成・提出方法、県議会への参加方法等だが、実施校の意向に基づき適宜アレンジを加える。
- 出前講座終了後も使える知識を生徒に身につけてもらえるよう、議員は、県議会へ意見や要望を伝える手段の一つである請願(陳情)書の作成を念頭に、生徒と意見交換する。
- 出前講座当日は、生徒と議員の意見交換等を優先するため、請願(陳情)書の作成ルールや提出後の流れは、事後学習として位置づけ

アンケートの実施

- 開催前・開催後に生徒へのアンケートを実施し、取組内容の評価や改善に活用
- 教材に添付の2次元コードから回答できる。

実際にかかった年度費用

- 令和5年度
- 資料印刷費:73千円
 - 資料発送費:9千円
 - 議員派遣に係る費用:330千円

取組の効果

- アンケート結果によると、開催後には開催前より議会や議員を身近に感じる生徒が多くなっている。
- 担当教員からも「生徒が議員と直接意見交換できる貴重な場であった」との声がある。
- 参加議員からも「また参加したい」など前向きな意見が多い。



静岡県議会

大学生との意見交換会

議会データ
(令和5年7月)

人口:3,558,456人
議員定数:68名、現議員数:68名(男性57名、女性11名)
事務局職員数:40名
議会費:1,991,616<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 本会議の傍聴と併せ意見交換会を実施
- 大学の意向を踏まえ、多岐にわたる意見交換のテーマを設定。本会議の感想や意見についても活発に意見交換
- 複数の議員と語らう時間を十分に確保。学生は素朴な疑問から県政の課題まで積極的に質問
- 議員が大学に出向き、講義に参加するスタイルでの意見交換も実施

開催内容(令和5年12月12日の静岡大学(井柳ゼミ)との開催例)

日時	令和5年12月12日(火) 13:45~16:50
場所	静岡県議会 本会議場等
主催等	主催:議会(全体運営) 意見交換会テーマ、参加学生への事務連絡等は井柳教授と調整
参加者	静岡大学 井柳美紀教授 井柳ゼミ学生…12名 静岡県議会議員…2名(異なる会派の議員2名)
日程	<ul style="list-style-type: none"> ① 議会事務局から日程等の説明 ② 本会議傍聴(一般質問) ③ 議員との意見交換会(場所:県庁内会議室、進行:井柳教授) <ul style="list-style-type: none"> ● 「県議会の役割」をテーマに学生が議員に質問し、議員が回答 例:「女性議員が増えたことで変わったことは?」 →「不妊治療に関すること、性犯罪に関すること等、より多様な視点での質問が増えた。」 ● 「投票率」をテーマに学生が議員に質問し、議員が回答 例:「若者は立候補者のどのような情報を得て選挙に行き、どのような判断基準で投票すべきか。」 →「SNSの情報だけが正しいわけではない。公平性を考えながら、新聞やラジオ等からも自分で情報を得てほしい。人柄をみて、政策をみて、自分で選んで投票するべき。」 ● 井柳教授と議員から総括的なコメント、記念撮影

意見交換会をはじめたきっかけ

平成27年6月の公職選挙法の改正により、同28年6月から選挙権年齢が18歳に引き下げられることに鑑み、議長から大学との相互連携などについて議会運営等改善検討委員会に諮問したいと提案があった。

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 平成28年2月、各会派代表者会議で上記の諮問について了承し、同年10月の議会運営等改革検討委員会において、大学との相互連携の実施について合意。大学等の意向確認を経て、平成29年6月に広報委員会で実施内容等が説明され、同年12月に初の取組を実施

学校の選定方法

- 個別に大学へ依頼

参加議員の選定方法

- 各会派に選定を依頼

テーマの設定方法

- 学生がゼミで学んでいるテーマなど大学の意向に沿ったテーマを設定(メール等で事前に打ち合わせ)
テーマ例
 - ・「県議会の役割、投票率」
 - ・「多様な人が働きやすくなるための支援」及び「少子化問題の解消」
 - ・「貧困といじめ」

参加議員への事前説明

- ① 議会事務局からの運営方法に関する説明
- ② テーマに関連した県政課題に関する執行部からの説明や資料提供を実施(希望する議員)

参加議員の派遣方法

- 議員派遣(地方自治法第100条第13項)
※大学開催の場合のみ

報道発表

- 開催前に県政記者クラブへ当日の開催概要を記載した資料をリリース(取材案内)

工夫点・留意点

年度当初に県内の大学に実施希望を調査

- 年度当初に、各大学へ実施について希望を調査。令和4年度、令和5年度とも5大学7グループと意見交換会を開催

大学の意向を踏まえた意見交換のテーマ設定

- 意見交換のテーマは、学生がゼミで学んでいるテーマなど、メール等で打ち合わせを行い決定。「少子化・子育て支援」や「観光と地域活性化」など多岐にわたるテーマを議論した実績があり、希望する議員には、事前に執行部からの説明や資料提供を実施

本会議の傍聴と併せた意見交換の実施

- 学生は意見交換前に本会議を傍聴。その感想や意見についても、学生は議員に積極的に質問

複数の議員と語らう時間を十分に確保

- 意見交換の時間を十分に確保し、アットホームな雰囲気の中で学生はざっくばらんに質問することが可能。政治に対する素朴な疑問や議員になろうと思ったきっかけ、県政の課題に関する考えなど様々な議論が活発に展開

1回の開催に係る経費

- 資料印刷費

取組の効果

- 参加した学生からは、対面で話さなければ聞けなかったことをたくさん聞くことができ、こういった機会はとても貴重で大切だと感じたとの感想が寄せられた。
- 参加した議員からは、若者と交流できる貴重な機会であるとの意見があった。



POINT / 取組の概要

- 〇×クイズで県議会の役割や仕組みを楽しく学習
- 議員の案内で議事堂見学
- こども議員名刺、こども議員章等を配布するなど、参加者の意欲が湧く工夫
- 議長をはじめとする議員との名刺交換
- 児童が参加しやすい日程に開催(改選期以外は夏休み中に実施)

模擬議会をはじめたきっかけ

平成28年度第4回広聴広報会議において、県議会への興味や関心を高めることを目的に児童を対象とした模擬議会の開催について、構成員の議員が提案した。

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 平成28年10月
広聴広報会議において構成員からの児童を対象とした模擬議会実施の提案により検討を開始
- 平成29年10月
教育委員会及び選挙管理委員会との意見交換の結果等を踏まえ、新たな取組として親子県議会教室の実施を決定
- 平成30年8月
初回開催

参加議員の選定方法

- 議長、副議長、広聴広報会議の構成員全員及び参加を希望する議員(オブザーバー参加)

参加者の募集方法

- いわて県議会だより(広報紙)及び岩手県議会HP等で参加者募集の告知
- 県内小学校にチラシを送付
- 県内市町村に市町村広報紙への参加者募集記事の掲載を依頼

参加議員への事前説明

- 運営方法等については議会事務局から説明(リハーサルを含む。)

参加議員の派遣方法

- 広聴広報会議構成員は議員派遣(地方自治法第100条第13項)
- オブザーバー参加の議員は自主参集(政務活動費等)

報道発表

- 開催前に2回(参加者募集と開催案内)プレスリリースを実施

開催内容

日時	令和5年12月26日(火)13:00~16:00
場所	岩手県議会議事堂
主催等	主催:岩手県議会(企画、当日の運営など)
参加者	県内の小学校・義務教育学校に通う5・6年生の児童及び保護者…15組30名 岩手県議会議員…12名(正副議長及び広聴広報会議構成員5名のほかオブザーバー参加議員5名)
日程	①オリエンテーション ②開校式(議長あいさつ、参加議員紹介、参加児童紹介) ③1.県議会の役割についての学習 2.県議会クイズ ④議事堂探検、議員と名刺交換 ⑤議員に聞いてみよう(質疑応答) ⑥閉校式(児童感想発表、副議長講評、議員カード兼親子県議会教室修了証の交付、記念撮影)

工夫点・留意点

リアルな県議会議員体験

- 参加児童は県議会の例に倣い、議長の呼名後に元気よく、「議長」と挙手をして自己紹介を行う(オリエンテーション時に職員からレクチャーあり)。また、個人名の入ったこども議員名刺が用意され、議長をはじめとする参加議員と名刺交換を行うことで、よりリアルな議員体験ができる。

親子教室のため、保護者が常時サポート可能

- 保護者と行動を共にさせることで児童が安心できる環境を作っている。

議員と話しやすい雰囲気づくり

- 「議事堂探検」では、議員が先導しながら議場や委員会室等の説明を行い、「議員に聞いてみよう」では、議員と児童を交互に着席させるなどにより、議員を身近に感じてもらい、交流の促進につなげている。

終了後のアンケート調査の実施

- 児童と保護者が満足できるイベントにするため、アンケート結果は次年度の活動に活かしている。

1回の開催に係る経費

- 議員派遣に係る費用(正副議長分を含む)
- 印刷経費等(修了証、こども議員名刺、こども議員章、配布資料など)

取組の効果

- 「小学生でも議会が傍聴可能なことを初めて知った。今度は実際の議会を傍聴しに来たい。」との声もあり、県議会への興味・関心を高めることができた。
- 議員と色々な話をすることで親近感が湧いたとの声が多くあり、県議会をより身近に感じることができる。
- 児童だけでなく保護者も議会や議員に関する理解を深めることができる。



POINT /
取組の概要

- 高校生を対象に模擬議会を開催
- 参加申込みをした全ての学校が参加可能
- 議会だけでなく、執行部、教育委員会、選挙管理委員会も含めた県全体として、高校生議会を開催
- 高校生議員からの質問では、図表の活用等を認め、持ち時間内であれば複数回の再質問も可能など、自主性・創意工夫を尊重

模擬議会をはじめたきっかけ

平成31年4月執行の岡山県議会議員選挙で投票率が過去最低となったことに危機感を抱いた当時の議長が、議会改革の取組の一つとして高校生議会の開催を提案した。

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 令和元年6月、高校生議会の開催に向けた検討を開始。同年9月、議会運営委員会で高校生議会の開催了承。同年11月、議会運営委員会で高校生議会の開催要領了承。同年12月、初回実施
- 実施については、毎年、新議長就任の都度、意向を確認

学校の選定方法

- 県内の高等学校、中等教育学校後期課程、高等支援学校、特別支援学校高等部、高等専門学校(3年生までに限る。)及び専修学校高等課程に在学している生徒から、1校当たり1グループ(5名以内)で参加者を募集

参加議員の選定方法

- 議長、副議長、各常任委員長・副委員長、各特別委員長・副委員長が出席

テーマの設定方法

- 参加校から事前に提出された質問に対して、常任委員長が答弁(各参加校の持ち時間内(5分以内)であれば、再質問も可)

参加議員への事前説明

- 正副議長へは、議会事務局から説明
- 答弁する常任委員長へは、執行部同席の上、議会事務局から説明

参加議員の派遣方法

- 議会行事の日にあわせて開催しているため、派遣なし

報道発表

- 開催前:開催決定時(8月)、参加校決定時(9月)、開催内容決定時(12月)に発表
- 開催後:高校生議会の終了後、参加高校生への取材の場を設定

開催内容

日時	令和5年12月19日(火) 13:00~17:03
場所	岡山県議会本会議場
主催等	主催:議会(総括・企画・広報、他の主催者との連絡調整、質問原稿に関する参加校との連絡調整、答弁案等の作成支援、当日の運営) 執行部(参加校との連絡調整、答弁案等の作成、当日の運営) 教育委員会(参加校との連絡調整、企画に関する助言、広報、当日の運営) 選挙管理委員会(当日の運営)
参加者	高校生…70名 岡山県議会議長、副議長、各常任委員長・副委員長、各特別委員長・副委員長、知事、教育長・教育委員、警察本部長、選挙管理委員長
日程	高校生議会(13:00開会、場所:本会議場、進行:議長及び高校生議会議長) ①開会 ②挨拶(議長、知事、教育長、警察本部長、選挙管理委員長) ③参加者の紹介 ④高校生議会議長の指名 ⑤各校の質問及び委員長答弁(第1部) <休憩> ⑥各校の質問及び委員長答弁(第2部) ⑦挨拶(副議長) ⑧閉会

工夫点・留意点

県全体としての開催

- 議会だけでなく、執行部、教育委員会、選挙管理委員会も主催者であり、県全体として高校生議会を開催している。

申込みをした全ての学校が参加可能

- 募集に当たって、1校当たり1グループ(5名以内)に制限しているが、その範囲内であれば選抜は行わず、申込みのあった全ての学校を参加させることとしている。

図表の活用等、高校生による創意工夫

- 図表やグラフ等の資料を示して質問を行うなど、質問内容や質問の仕方について、高校生による主体的な創意工夫が行われている。

持ち時間内であれば複数回の再質問も可能

- 各参加校の持ち時間内(5分以内)であれば、再質問も可能で、高校生から数回にわたって再質問がされる例もある。

開催後アンケートの実施

- 開催後に、県政や県議会への関心、理解等についてのアンケート調査を行い、その結果を次回開催に活用するようにしている。

実施状況等の広報

- 当日の様子等が分かるよう、県議会HPに報告書や録画配信などを掲載している。



実際にかかった年度費用

- 生徒等の派遣に係る費用
- 報告書、会議録等の記録作成費
- 物品等の消耗品費

取組の効果

- 開催後に実施しているアンケート調査の結果では、参加高校生のほとんどから「参加して良かった」、「県政や県議会への関心や理解が深まった」といった意見が寄せられている。



POINT /
取組の概要

- 毎年11月頃、県議会において、高校生による模擬議会を開催
- 県内を5地域に分けて、バランスを踏まえて参加校を選定
- 事前学習会を開催し、県政や議会についての理解を深めてもらった上で、各地域のグループで代表者、質問項目を検討・決定
- 高校生議員からの質問・執行部の答弁に加えて、意見書提出・採決、議員代表の決意表明を実施

模擬議会をはじめたきっかけ

平成27年7月に設置された議会改革検討協議会において、選挙権年齢が18歳以上に引き上げられることを受け、次代を担う県内の高校生及び中学生が、県議会の役割や県行政への理解と関心を高めることを目的として、模擬議会の開催を議長が提案した。

開催に向けた準備

議会における実施に向けた検討

- 平成27年7月、第1回議会改革検討協議会において、議長から中学生や高校生などを対象に、議会や政治に関心を持ってもらえるような模擬議会の開催について提案。教育庁との協議・調整を経て27年10月、第2回協議会において、高校生等を対象とした模擬議会を翌28年1月に開催することを決定。27年11月、各会派会長会議で高校生県議会の開催について報告(了承)

学校の選定方法

- 教育庁が県内5地域のバランスを踏まえて参加校を選定・依頼(参加する生徒は各校が推薦)

参加議員の選定方法

- 議長、副議長、議会運営委員長が出席(議会運営委員長は高校生議員任命式のみ出席)

テーマの設定方法

- 県議会が議題を設定
第1回「山口県を元気で住みやすい県とするための取組」
第2回以降「元気な山口県を創っていくための取組」

参加議員への事前説明

- 当日の進行役を務める議長に対し、議会事務局から議会運営等について説明

参加議員の派遣方法

- 議員派遣(地方自治法第100条第13項)

報道発表

- 開催前:県庁記者クラブへ当日の開催概要を提供
- 開催後:高校生県議会の休憩時間や終了後に、記者が生徒や事務局に取材

開催内容(第9回の例)

日時	令和5年11月13日(月) 10:45~15:30
場所	山口県議会 本会議場等
主催等	主催:議会(全体運営) 共催等:教育庁等(参加生徒の募集、事前学習会におけるグループ協議の進行、参加学校への事務連絡等)
参加者	高校生…47名(3年生8名、2年生36名、1年生3名) 山口県議会議長、副議長、議会運営委員長、知事、教育長、関係部局長等
日程	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生議員任命式(場所:全員協議会室) 議長が任命書、議員バッジを交付 ● 議長室訪問(記念撮影)、リハーサル <p><昼食休憩> 高校生県議会(13:00開会、場所:本会議場、進行:議長及び副議長)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①議長開会宣言 ②知事あいさつ ③高校生議員の自己紹介 ④高校生議員10名からの質問(1名5分)及び知事をはじめとする執行部の答弁 ⑤高校生県議会からの意見書の提出・採決(「選挙活性化に向けた政治への興味を高めるための質問箱の設置を求める意見書」) ⑥高校生議員代表まとめあいさつ(決意表明) ⑦議長閉会あいさつ ● 記念撮影(高校生、正副議長、知事)

工夫点・留意点

地域のバランスを踏まえた参加校の選定

- 教育庁に県内5地域のバランスを踏まえた参加校の選定・依頼を要請(令和5年度は各地域から4~5校、9~10名が参加)

高校生の主体性を尊重した運営方法

- 事前学習会を開催し(令和5年度は8月21日)、高校生に県政や議会についての理解を深めてもらった上で、各地域のグループに分かれて、代表者、質問項目について検討・決定

高校生議員からの質問・執行部答弁に加えて、意見書の提出・採決、決意表明を実施

- 高校生議員からの質問、執行部の答弁(質問は事前通告)に加えて、意見書の提出・採決、高校生議員代表による決意表明を実施

開催後、「やまぐち高校生県議会広報」をHP掲載

- 開催後、県議会HPに概要や会議録、5つの地域ごとに作成した「やまぐち高校生県議会広報」などを掲載



令和5年度予算

- 生徒の派遣に係る費用:83千円
- 議員バッジ、記録用DVDの作成、会議録印刷:280千円
- 会議録反訳、記念写真撮影:96千円

取組の効果

- 参加した高校生からは、県政や議会に対する関心が高まったとの声が聞かれ、本県の高校生の主権者教育の一助となっていると認識している。

北海道登別市議会

議長による特別講話授業

議会データ
(令和5年7月)

人口:44,745人
議員定数:19名、現議員数:19名(男性16名、女性3名)
事務局職員数:5名
議会費:149,549<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 市内中学校の依頼により、議長が講師となり、3年生の社会科授業1コマの特別講話授業を行う。
- 希望により議長が学校に出向いて行う場合や、生徒が本会議場に来て、本会議場で行う場合があり、本会議場の場合は議場見学等も併せて実施している。

特別講話授業の内容

特別講話授業の資料は議長が作成

- 自己紹介
- 中学3年生で阪神淡路大震災を経験
- 議員を目指した理由
- 地方議員とは
- 二元代表制
- 議員求人と題し登別市議会議員の概要
- 投票率
- 仮試算による1票の価値
- 登別市議会のコンセプト
- 全国の市議会の構成
- 中学生にもあるフィルターバブル
- 議会・市役所をみる
- 参加・伝える方法



工夫点・留意点

議長公務

- 特別授業の依頼は市議会にあったが、登別市議会では視察対応は、以前から議長が自ら資料を作成して説明をしていることもあり、特別授業についても、議長が資料を作成して授業を行う形とした。
- 議会代表の議長公務として説明をするため、政治的公平性などの説明内容に留意している。

開催場所

- 令和4年度に学校に出向いて特別授業を実施した際に、授業を聞いた生徒から本会議場の見学意向があったため、令和5年度は本会議場で開催した。学校の意向により開催場所は柔軟に対応している。

サポート議員の募集

- 生徒に議会・議員を身近に感じてもらうため、議場見学の案内や質問対応などとして、サポート議員を募集

議会内共有

- 全議員に議会グループウェアにてタイムスケジュール等を共有
- 議長が議会運営委員会で概要を報告

取組の効果・今後の展開

- 本講話授業を通して市議会に興味を持ってもらい、議会をより身近に感じてもらうことができるため、今後も依頼があれば同授業を行っていききたい。
- 議会の広聴の仕組みとして議会フォーラムを開催しているが、高校生や専門学校生の参加募集のため、市内の全学校に案内をしている。特別講話授業をうけた生徒が高校生になり、参加してくれることを期待している。
- 実施している中学校の校長が校長会で参加校の募集をしてくれているが、議会としても更なる募集をしていきたい。

はじめたきっかけ

登別市議会が早稲田大学マニフェスト研究所による議会改革度調査2021において、第2位となったことを報道で知った市内中学校の教員からの依頼により、令和4年度から議長による特別講話授業を実施することとなった。

開催に向けた準備

学校との調整

- 議長と事務局職員が事前に学校に訪問して社会科の担当教諭と内容について打合せ

議会の段取り

- 議長が、議会運営委員会で概要報告の上、当日のサポート議員についてグループウェアで募集

教育委員会事務局手配による送迎バス

- 学校から本会議場へは、教育委員会事務局が手配した市のバスで送迎

報道対応

- 登別記者会へ当日の開催概要を情報提供
- 開催日は、質問への回答など取材対応

開催内容(令和5年度の例)

日時	令和6年1月25日(木) 2・3時間目(移動時間含む)	日程	①本会議場見学 ②議長・校長挨拶・サポート議員自己紹介 ③議長特別講話授業 ④生徒からの感想 ⑤本会議場見学(①で実施していない生徒)
場所	本会議場		
参加者	議長・サポート議員…6名 市立西陵中学校3年生2クラスの生徒…47名		



長野県伊那市議会

市内高校生の本会議傍聴と全議員との意見交換

議会データ
(令和5年7月)

人口:65,647人
議員定数:21名、現議員数:21名(男性16名、女性5名)
事務局職員数:4名
議会費:210,802<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 市内の高校生に、市議会定例会一般質問の傍聴を募集し、その後、議員が傍聴があった高校に出向き、いくつかのテーマに沿い、グループごとに意見交換を行う。
- 議長等が傍聴依頼等を各学校に行っている。
- 各学校との意見交換で出た意見について、常任委員会で協議して、報告書として公開している。

開催内容(令和5年度伊那西高等学校の例)

日時	令和5年7月20日(木)9:30~11:05 (本会議傍聴は、令和5年6月14日(水)午後1:30~2:00に実施)
場所	学校法人高松学園 伊那西高等学校
参加者	議員…20名参加・事務局…2名 2年生生徒…23名・教員…2名
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ●この地域の良いところ ●議会に若者の力を取り入れるには ●その他生徒から要望したいこと
日程	<ol style="list-style-type: none"> ①議長挨拶 ②グループ懇談(7グループ) <ol style="list-style-type: none"> 1.自己紹介 2.テーマに沿った意見交換 ③グループ懇談の内容の発表(議員) ④感想の発表(生徒全員) ⑤副議長講評・挨拶

伊那市議会HP
当日の様子及び意見交換会報告書



工夫点・留意点

意向の反映

- 学校の希望を踏まえ、意見交換のみ実施するなど柔軟に対応

意見交換の運営

- 当初は議員より生徒の方が多く状況で意見交換を行っていたが、発言の機会が少なくなることや、多人数の中では、発言しない生徒も多かった。そのため、議員を含めて6~8名程度のグループに分かれて意見交換を行う形として、議員は全員参加とした。
- 生徒の意見は一旦受け止めるようにするなど、生徒が話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。

意見への回答

- 意見交換の際は、書記役の議員を設け、出た意見を箇条書きにして議会運営委員会を担当する常任委員会を決定している。その後、常任委員会では、各意見への対応を協議して(執行部への回答依頼含む)、意見交換会報告書として公開している。

取組の効果・今後の展開

- 議員へのイメージが、身近で話しやすいと変わった生徒が多い。「議員に意見を伝えられたという生徒の満足感もある」という感想をもらっている。
- 参加した議員からも、高校生の声を直接聞ける機会であり、今後も積極的に行っていきたいという意見が多い。
- 意見交換に参加した生徒が、請願を提出した。
- 議会棟で行った学校との意見交換を含め、高校との交流の実施状況をリーフレットにまとめ、意見交換を行った全生徒に(可能であれば保護者にも)見てもらい、議会活動をPRして、政治や選挙に対する興味を少しでも持ってもらえるように働きかけていきたい。

はじめたきっかけ

平成30年の議員選挙が無投票となり、議員のなり手不足に危機感を持ったため、全議員参加の「魅力ある議会づくり検討委員会」を同30年6月に設置し、平成31年1月まで全5回の委員会を開催した。その中で、若い世代の意見を聞くために、高校生の本会議傍聴や意見交換について協議をした。

開催に向けた準備

教育委員会及び校長会との調整

- 教育長と魅力ある議会づくりの検討について意見交換
- 教育長及び校長会の会長と議会傍聴等の実現に向けた打合せ
- 校長会で高校生の議会傍聴等について複数回の協議及び依頼
当初は、高校生の議会傍聴の募集を行い、さらに受け入れ可能な高校があれば意見交換を希望と依頼

学校との調整

- 校長会での依頼にプラスして市内全5校の高校に議長と事務局長が個別依頼
- 開催意向があった高校と希望する内容を踏まえ調整

議会の段取り

- 意見交換の開催前に参加議員向けの説明を事務局が実施
- 本会議傍聴時は「伊那市議会取扱説明書」を配付し、学校側の希望する時間で実施

参加議員の派遣方法

- 議員派遣(地方自治法第100条第13項・伊那市議会会議規則第130条)

報道対応

- 開催前に記者発表を行い、当日は1~2社の取材対応



山梨県甲州市議会

市内全小中学校での出前キャリア教育授業

議会データ
(令和5年7月)

人口:29,674人
議員定数:17名、現議員数:17名(男性13名、女性4名)
事務局職員数:5名
議会費:166,976<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 全議員17名が6つのグループ(3名1組)に別れて、市内の全小中学校(小学校13校・中学校4校)に出向き、議会の仕組みなどについて説明した後、児童生徒からの質問に答える出前授業を実施した。
- 子ども議会に代表児童生徒を選出する市内の小学6年生・中学3年生全員を対象に、各教室で出前授業を行った。

開催内容(令和5年度の例)

日時	令和5年5月15日(月)~31日(水)の間の8日 各学校の授業時間は1時間
場所	市内小学校13校・中学校4校の各教室
参加者	議員3名1組×6グループ 各グループ約4回の出前授業 市内 13校の小学6年生…232名 市内 4校の中学3年生…242名の計474名
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 「議会や行政の意義や仕組みを知ってもらう」をテーマにした特別授業 ● 子ども議会研究会の議員が作成したスライドに基づき、共通原稿で授業を実施
各校の主な流れ	<p>【前日までの準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前日、学校に確認の連絡をいれる。授業風景の写真撮影の確認をする。 ● 当日のプレゼン担当、機器担当、写真等担当を事前に確認 <p>【当日の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 当日授業開始15分前に玄関前集合 ② 学校担当者の指示に従う※控室でのお茶は辞退 ③ 10分前に教室へ(機器の確認、各担当の確認作業) ④ 授業開始、スライドに沿って説明(担当議員が挨拶と紹介をする)(小学校35分、中学校40分以内に終わらせる) ⑤ 10分程度質疑応答(子ども議会開催の話をする) ⑥ 授業終了 ⑦ 学校担当者へお礼を言い、解散

はじめたきっかけ

投票率低下など若者の政治離れが進んでいる現状から、子ども議会の開催方法を検討していた。そのような中、学校側から主権者教育として、出前講座を子ども議会の前に行ってほしいとの意見が出たことを踏まえ、キャリア教育授業の出前授業を行うこととした。

開催に向けた準備

議会の段取り

- 議会改革研究会内で子ども議会を進めていくチームを決め、主権者教育の内容について検討
- 校長会での議論を踏まえ、議員全員協議会で、子ども議会研究会の立ち上げを承認
- 議員全員協議会で、子ども議会研究会の議員がキャリア教育授業の実施を説明し、全議員を3名1組とする6つのグループ(子ども議会研究会のメンバーがリーダー)を決定
- 子ども議会研究会の中で当日の役割や授業内容などを決定し、グループごとに流れなどを確認し、当日までに練習を行う。

教育委員会及び校長会との調整

- 子ども議会開催について教育長と話をする中で、校長会との協議が重要との意見があり、議員が校長会に出席して、子ども議会の内容やキャリア教育授業について何度も協議を行う。

- 議員定数と市内の小中学校が17と同じため、子ども議会に各校の児童生徒の代表者を選出してほしいことや、それに先立ち全校で出前授業を行うことについて教育委員会や校長会で了承を得る。
- 子ども議会研究会の議員が、各学校に出前授業の日程調整を実施した。なお、各学校との調整には教育委員会に間に入ってもらう。
- 開催日決定後の各学校との調整は、担当グループが個別に行う。

報道対応

- 開催前に、CATVや新聞社へ開催連絡を行い、開催日は取材対応し、後日CATVで放送された。

工夫点・留意点

意向の反映

- 全学校で授業一コマもらうのは大変のため、議会側の意見を主張するだけでなく学校の意向を踏まえ柔軟に対応し、教育委員会・校長会などで説明し協力や周知を依頼

授業内容

- 作成したスライドは写真を多めにする漫画型を意識して作成した。当日の授業をイメージしてクイズ形式にするなど、飽きさせない授業となるよう工夫した。

1グループ3名の議員で担当

- 学校の負担にならずに授業を実施することを想定し、メイン説明・スライド操作などのサブ・教室後ろでのサポート役の議員3名1組とし、各学校(クラス)の担当制とした。
- 開催について各学校に必要なに応じて個別説明を実施

議員を身近に感じてもらう

- 議員との距離感を重視し、各教室で実施
- 授業内での質疑応答以外に、質疑がある場合は後日もらい、担当グループが回答
- 後日開催した子ども議会では、出前授業で学校に訪問した議員がサポート役として各校の代表児童生徒を担当

政治的公平性の確保

- 授業内容がグループで異ならないように、資料は統一として学校に事前送付
- 議員の地元学校以外に派遣

取組の効果・今後の展開

- アンケートでは、地方議会や議員について前向きな回答を多くもらった。また、先生からも、授業では国の議会のことなどは教えるが、身近な市議会のことは教える機会がないとのこと好評であった。
- 議会や行政について身近に感じてもらうことができたと考え、今後も、子ども議会とともに継続していきたい。



茨城県取手市議会

市立中学校との協働事業「議会を知り・未来を語る」

議会データ
(令和5年7月)

人口:105,894人
議員定数:24名、現議員数:24名(男性18名、女性6名)
事務局職員数:7名
議会費:269,334<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 2部制で実施し、前半は議員が学校へ出向く「出前授業」として、各クラスでグループごとに市への提言を発表し、クラス代表の提言を投票で決定する。後半はクラス代表が議場にて「中学生議会」を実施する。議場の様子をYouTubeで配信し、教室からオンラインによる電子採決を行うなど、教室の生徒も参加できるよう工夫している。

開催内容(令和4年度市立藤代南中学校の例)

	前半「出前授業」	後半「中学生議会」
日時	令和4年12月16日(金)5・6時間目	令和4年12月20日(火)5・6時間目(移動時間含む)
場所	市立藤代南中学校3年生各教室	本会議場 市立藤代南中学校3年生各教室
参加者	議員…11名・事務局…4名 (1クラス議員3名と事務局1名) 3年生4クラスの生徒…約120名	議員…17名・事務局…6名 3年生代表生徒…20名(議場) 3年生代表生徒以外…約100名(教室)
テーマ	「住みよい取手市をつくるための提言」	左記テーマに基づき各クラスから選ばれた5つの提言を、議案に見立て審議
日程	①参加議員等の自己紹介 ②議会クイズ ③グループ(1グループ約4名の生徒)ごとに提言のまとめ ④グループごとに発表 ⑤投票によりクラス代表の決定(実際の投票箱で実施)  取手市議会HP 「出前授業」当日の様子	①生徒議長選出(立候補演説、投票、開票) ②各クラス代表者による発表 ③質疑・討論 ④採決(実際の採決システム使用) ⑤可決議案を議長に提出 ⑥議長からの講評  取手市議会HP 「中学生議会」当日の様子

はじめたきっかけ

平成27年6月の公職選挙法の改正により、選挙権が18歳に引き下げられたことを契機に、市議会として若い世代への取組が必要であるとの観点から、平成28年度に議長名で、中学校校長宛に依頼文を发出した。自分の住むまちや議会への関心を高めること、若い世代からの柔軟な発想を市政や市議会の改革につなげる広聴機能の充実、議会を身近に感じてもらうことで将来的な投票率の向上につなげることを目的として開始した。

開催に向けた準備

市内中学校校長宛に文書により案内

- 教育委員会事務局や校長会等で事業説明をした後に、議長名で中学校校長宛に文書で案内

学校との調整

- 希望があった中学校と開催にむけた調整を行う。また、希望がない中学校にも必要に応じて事務局が概要説明を個別実施している。
- 事前の打合せで、事務局からテーマやスケジュール、進め方などを説明した上で、学校の希望を聞き、テーマや実際のスケジュールを最終決定している。学校の希望をできるだけ反映し、学校の負担にならないように調整を行っている。
- 前半の「出前授業」開催前に、事務局と学校の担当教諭で1~2回の打合せ、後半の「中学生議会」開催前に、事務局がクラス代表生徒への事前説明を実施している。

議会の段取り

- 実施にむけた協議は、毎回議会運営委員会で行っている。
- 前半の「出前授業」では、学校で進行役となるグループリーダー議員に事前説明会を実施し、グループリーダー以外の参加議員へはスケジュールや注意事項等を事前配付している。

工夫点・留意点

意向の反映

- 学校としての計画や希望、ねらいをできるだけ反映している。(例:時間数が多く取れない場合は出前授業のみ)

出前授業でのアイスブレイク

- 「なぜ市議になったのか」「市議になってよかったこと」などの自己紹介、議会クイズを冒頭20分ほど実施している。

個別打診

- 校長会等の周知にプラスして、個別打診をしている。

生徒の自由な発想を尊重

- 若い世代からの柔軟な発想による市への提言が目的のひとつのため、生徒の説明内容の事前確認等はせず実施している。

既存システムのフル活用

- 中学生に議会を体験してもらうため、各フェーズで実際に使用している機材を使用している。「出前授業」で選管から借用した投票箱の使用や、「中学生議会」をオンライン配信して、教室の生徒も実際の電子採決システムで採決に参加するなど、生徒全員が参加者となれるようにしている。

可決した提言(議案)の所管事務調査

- 「中学生議会」で可決した提言(議案)は、所管常任委員会で所管事務調査を実施している。

取組の効果・今後の展開

- 開催前後にアンケートを実施しているが、開催前は市議会・議員のイメージについて、「遠い存在」「わからない」「興味がない」といった回答だったものが、開催後には「身近な存在」「興味がわいた」など前向きな内容へ変化している。
- アンケートの自由記述欄には、「市の課題に気づいた」「投票の仕方が本当の選挙のようで楽しかった」等の意見があり、将来的な市政・市議会への関心や投票への興味につながっている。



静岡県湖西市議会

高校生との意見交換会（意見交換から請願提出へ）

議会データ
(令和5年7月)人口:58,177人
議員定数:18名、現議員数:18名(男性12名、女性6名)
事務局職員数:5名
議会費:182,539<単位:千円>\ POINT /
取組の概要

- 特別委員会の委員が主体となり、高校生との意見交換会を開催している。
- 議会の会議室での意見交換のほか、テーマに関連する出前講座や、高校に出向いての意見交換も実施している。
- 意見交換で受けた意見を発展させる施策の検討が必要という課題を踏まえ、令和3年度は意見交換をした高校生が請願を提出し、令和4年度は市制施行50周年記念事業として高校生議会を開催した。

開催内容（令和3年度請願提出の例）

	「出前講座」	「議場見学及び意見交換」	「2校生徒での合同意見交換」
日時・場所・生徒・参加議員	令和3年11月11日(木) 県立新居高校教室 2年生政治経済選択生徒…9名 広報広聴特別委員会…6名	令和3年12月9日(木) 本会議場・会議室 左記 新居高校生徒 左記 特別委員会委員	令和4年1月20日(木) 県立湖西高校会議室 左記 新居高校代表生徒 左記 湖西高校代表生徒 左記 特別委員会委員
	令和3年11月26日(金) 県立湖西高校教室 2年生進学クラス生徒…35名 広報広聴特別委員会…6名	令和3年12月8日(水) 本会議場・会議室 左記 湖西高校生徒 左記 特別委員会委員	
内容	①議員説明 「市議会の概要」 「湖西市の課題」 ②意見交換 「湖西市の困っていること・あったらいいこと」	①本会議場見学 ②会議室で湖西市の課題についての前回内容を掘り下げ、課題抽出	各校で話し合ってきた内容についてさらに掘り下げ、政策提言に向けて話し合いを実施

請願書提出

- 令和4年2月1日(火)に高校生44名が以下の項目の請願書を提出し、令和4年3月定例会で採択された。

湖西市議会HP
「高校生との意見交換会」

請願項目
①高校生でも使えるデマンドバス学割など移動手段の検討 ②Instagramなど若い世代への更なる湖西市の情報発信 ③ショッピングモールなど商業施設の誘致 ④サイクリングロードとパーキングエリアの整備 ⑤海や湖を活かした観光レジャー施設の誘致

令和3年度の工夫点・留意点

出前講座の内容

- 高校生に議会の仕組みと役割、市の現状と直面している課題について理解を深めてもらうことを目的として、出前講座を実施した。この講座準備のため、事務局と委員会のメンバーが協力し、議論を重ねながら資料作成を行った。このプロセスを通じて、生徒たちに伝える内容を精査し、わかりやすく説明するための方法を練り上げた。

ワークショップ形式の意見交換

- 意見を付箋に書いて貼り出し、意見をグループ分けするなど、意見交換が活発化するように工夫
- グループごとのファシリテーターは議員が担当

政策提言にむけた意見交換の充実

- 意見交換の回数を従来の1回から3回に増やしたことで、意見の深掘りを行うことができた。

効率的な運営

- 効率のよい時間活用のための事前準備や請願提出のスケジュールを踏まえた、効率的な運営を心掛けた。

取組の効果・今後の展開

- 令和3年度の取組みにおける実施後アンケートの「政治に関心を持てたか」の項目において、「とても持てた・ある程度持てた」の回答をした生徒が87%であったことから、主権者教育にも貢献することができたと考える。
- 一般質問において請願内容の進捗状況の確認を行った。
- 意見交換は毎年度実施しているが、意見を発展させる施策については、高校・生徒側の負担も大きいことから、継続して実施するための工夫が必要である。

はじめたきっかけ

選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを受け、広報広聴特別委員会(当時)の活動として、「若者の議会活動に対する認知度の向上」を図るとともに、「若者の考えを政策・提言に反映させる」「若者がまちづくりを考える」きっかけづくりを目的として、平成28年度から市内に2つある県立高校の生徒との意見交換会を開始した。

開催に向けた準備

市内の高校への個別打診

- 開始にあたっては、事務局が市内に2つある県立高校と調整をした。2つの高校は、日ごろから湖西市の執行部とつながりがあることから理解を得やすかった。
- 以後は毎年度、事務局が各校と個別に開催調整をしている。

学校との調整

- 議会の広聴を所管する特別委員会の正副委員長・事務局で学校に出向き校長、教頭、担当教諭等と事前の打合せを実施
- 事前の打合せでは、開催の趣旨を丁寧に説明し、双方でしっかりと目的を共有した上で、日程、開催場所、意見交換の内容、進め方等について協議している。

- 意見交換に参加する生徒は各学校が選定
- 以後は、担当教諭等と特別委員会正副委員長・事務局とで詳細事項について打合せを実施

議会の段取り

- 議会の広聴を所管する特別委員会の委員長が議員全員協議会の場で、開催概要の報告や必要に応じて当該特別委員会以外の議員の協力を要請している。
- 開催日までの特別委員会の勉強会において、当日の進行、役割等について協議



三重県四日市市議会

出前型シティ・ミーティング「ワイ!ワイ!GIKAI」

議会データ
(令和5年7月)人口:308,523人
議員定数:34名、現議員数:34名(男性24名、女性10名)
事務局職員数:16名
議会費:639,015<単位:千円>

POINT / 取組の概要

- 4つの常任委員会でテーマ・団体(※)を選定し、原則、年1回委員会所属の全議員が学校等を訪問して意見交換を行う。

※団体は学生・生徒をはじめとした若い世代(中学校・高校・大学・特別支援学校等)が対象

- 常任委員会の活動として、正副議長が各団体に開催依頼を実施している。開催後は、その内容を議会運営委員会で共有し、公開している。

開催内容(令和5年度総務常任委員会の例)

日時	令和6年1月12日(金)10:00~11:30
場所	学校法人特別支援学校 聖母の家学園
参加者	総務常任委員会…8名 高等部専攻科生徒…約25名
テーマ	●選挙について ●市議会ってどんなところ?市議会議員ってどんな人?
日程	①校長・委員長・各委員挨拶 ②四日市市議会について概要説明 ③グループワーク(議員2名×生徒約6名) 1.グループ討議 ●選挙について ●市議会ってどんなところ?市議会議員ってどんな人? 2.グループワーク ●選挙ポスター作り(生徒会選挙などに立候補想定) ④各グループからの感想や作ったポスターの発表 ⑤副委員長挨拶 ⑥アンケートの配付、説明

四日市市議会HP
「ワイ!ワイ!GIKAI」

はじめたきっかけ

平成23年度開始の議会報告会の参加者の減少や固定化等の課題を踏まえ、令和元年度に議会運営委員会で議会報告会のあり方を検討した。その結果、若い世代を対象とした出前型シティ・ミーティング(意見交換会)を新たに実施することが確認された。なお、令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が見送られ、令和4年度から実施となった。

開催に向けた準備

教育委員会及び校長会への説明

- 開始にあたり事務局が教育長以下の教育委員会事務局に概要説明
- 市内高校へ開催案内を送付して、高校生議会への参加依頼と併せて校長会で周知

学校との調整

- 応募のあった高校等と日程調整を行い、常任委員会の正副委員長が学校等に出向き、進め方等の協議を行う。

議会の段取り

- 応募団体の希望するテーマを踏まえ、必要に応じ議会運営委員会で担当常任委員会を決定

- 開催前に常任委員会で、委員長から委員に説明を行い、進め方等の確認と共有を行う。
- 当日の進め方、内容、配付資料等は常任委員会で協議し、決定している。

参加議員の派遣方法

- 四日市市議会会議規則第159条(協議・調整の場合)に「議会報告会」を明記し、議会報告会運営細則の中で、「シティ・ミーティング」の一つとして公務に位置付けている。

報道対応

- 市政記者クラブへ開催概要について情報提供
- 開催日は資料配付、質問への回答など取材対応

工夫点・留意点

意向の反映

- 相手方の意向や要望を聞き取り、可能な限り、当日の内容に反映

テーマ以外の質問時間の設定

- 議会や議員を身近に感じてもらうため、テーマ以外の質問時間についても、各常任委員会の判断で設けている。

個別打診

- 各常任委員会の所管と関連する特徴的な取組をしている学校等へ、校長会での周知にプラスして、個別打診をしている。

議会内共有

- 意見交換の概要をとりまとめ、各常任委員会で内容を確認した後、議会運営委員会において各委員長が結果を報告している。

政治的公平性の確保

- 意見交換の内容によっては留意事項について、市の選挙管理委員会事務局に相談している。

アンケートの実施

- 開催後に参加生徒にアンケートを実施し、その結果を議会運営委員会で共有している。

取組の効果・今後の展開

- アンケートでは、「選挙に行ってみたくて思った」「自分の意見を直接議員に伝えることができた」など肯定的な意見が多かった。
- 参加議員からは、若い世代の声を聞く貴重な機会との意見が多い。
- 今後、出された意見に対して所管事務調査等を行ったり、学校側でも成果につなげてもらうなど、発展的な取組に広げていくことも考えられる。



兵庫県神戸市会

高等学校と連携した主権者教育の実践

議会データ
(令和5年7月)

人口:1,503,544人
議員定数:65名、現議員数:65名(男性48名、女性17名)
事務局職員数:35名
議会費:2,070,852<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 正副議長と会派代表議員が市内の高校に出向き、現実の社会課題について意見交換を実施
- クラスごとで実施された生徒間のディスカッションには議員も参加し、意見交換を行う。

開催内容(令和5年度の例)

日時	令和5年12月15日(金)8:50~10:40
場所	兵庫県立神戸甲北高等学校
参加者	正副議長・会派代表議員…5名・参加希望議員…12名 全校生徒…約600名
日程	<p>【1時間目(体育館)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①議長、副議長挨拶 ②代表議員紹介 ③議員への質問タイム ④社会課題提示 「神戸市の子育て支援施策はどこに重点を置くべきか」 ⑤会派意見紹介 ⑥課題に対する会派代表への質問 <p>【2時間目(ホームルーム教室)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●提示された社会課題について、各教室で生徒間でディスカッション ●参加議員が各教室を訪問し、生徒と意見交換



2時間目の様子

はじめたきっかけ

- 地方議会においては、地域課題や議会に対する住民の無関心や議員のなり手不足などの課題に直面している。神戸市会においては、議会活動の理解促進を図るため市会広報委員会を設置し、様々な広報活動を検討していた。その中で、市内の教育機関に対し、主権者教育の一環として学校による議会見学などについて、これまで以上に広報をするなど、教育活動における市会との連携を呼びかけることとなった。
- 一方で、学校や教育委員会においては、選挙年齢の引き下げや、科目「公共」の創設などにより、教育現場において主権者教育の具体的な展開が求められていた。
- 主権者教育の具体的な取組を検討する中で、兵庫県立神戸甲北高等学校(以下「神戸甲北高校」という。)&と具体的な教育実践に着手することで合意した。

開催に向けた準備

神戸甲北高校との調整

- 神戸甲北高校から市会事務局に対して、主権者教育の実践について相談
- 実践内容については、議員と生徒が交流・意見交換する場面を設定することを基本として、生徒の状況を踏まえて効果的な実践プログラムになるよう、学校側が具体案を提案
- 当日の進行やディスカッションテーマについて調整
- 現実の社会課題をテーマにすることにより、政治に積極的に参画する姿勢を育成することを目標とする。

議会の段取り

- 各会派の代表によって構成される代表者会議において、神戸甲北高校と連携した主権者教育の実践を行うことを確認

- 当日参加する代表議員を各会派から選出。また、クラスごとのディスカッションに参加してもらうため、参加可能な議員を募集
- ディスカッションテーマについて会派ごとの意見を集約

報道対応

- 市政記者クラブへ当日の開催概要をプレスリリース
- 開催日の取材は、市会事務局に事前連絡の上、学校と市会事務局で対応

授業内容工夫点・留意点

- 地方議会がどのようなものか知らない生徒がほとんどなので、まずは、議員を知ってもらう機会を設定した。社会課題の議論を行う前に、議員に対する質問タイムを設け、議員になった理由や、議員の日常生活や趣味に関する内容の質問があり、議員をより身近に感じてもらった。
- ディスカッションテーマについては、現実の社会課題を設定することとした。課題が難しいのではないか、との意見もあったが、リアルな社会課題について議会でのどのような議論が行われているのかを知ることで、議会制度に対する理解が深まることを期待した。
- 地域の社会課題を研究する生徒のグループからも、ディスカッションテーマについての意見を発表した。参加生徒数が多いため、代表生徒が発言することにより、社会課題を我が事として、より身近なものにとらえてもらえるよう工夫した。

開催後のアンケート

- 当日出席した議員に対しアンケートを実施し、次年度開催に向け学校とも共有した。

取組の効果・今後の展開

- 参加した議員からは、多くの生徒と意見交換ができ、有意義であった、との感想があった。
- 学校からも、多くの議員に参加していただき、生徒も議会をリアルに感じる事ができた、との意見をいただいた。
- クラスでの議論への議員参加は、意見交換と交流が進み、効果的であった。
- ただ、参加生徒数が多く、議論が十分に深まらない場面も見受けられた。
- 試行的に実施したものであり、今後、学校とも協議を続けて、より効果的で興味深いプログラムになるよう、ブラッシュアップしていく。
- 神戸甲北高校の取り組み概要を市内の全高等学校に参考送付した。



熊本県熊本市議会

若い世代との意見交換会(ウェブアンケートの活用)

議会データ
(令和5年7月)

人口:730,666人
議員定数:48名、現議員数:48名(男性42名、女性6名)
事務局職員数:28名
議会費:1,106,965(単位:千円)



POINT / 取組の概要

- 議長と議会広報委員会委員が市内の高校や大学に出向き、意見交換を実施している。
- 事前にウェブで学校に実施した議会や議員に関するアンケートの回答を基に、生徒の代表と意見交換を行っている。

事前アンケートの内容

意見交換を行う前に、学校の生徒に対し、熊本市議会に関するアンケートをウェブ(Google Forms)にて実施している。

令和3・5年度は高校と実施したため、該当の高校2年生生徒全員を対象に、令和4年度は県立大学と実施したため、該当の大学生全員を対象に実施した。高校では、配付されているタブレットでのアンケートにより、回答率はほぼ100%となっている。



熊本市議会HP
「R5年度市議会と高校生との意見交換会」
実施報告

アンケートの主な項目

- ① 熊本市議会議員について
 - 仕事・印象・なりたいか・定数・任期
- ② 選挙について
 - 選出方法・18歳選挙権・投票
- ③ 熊本市議会について
 - 役割・定例会回数・傍聴希望・傍聴方法・議会だより・SNS認知度
- ④ 政治について
 - 興味・身近かどうか・家族等との会話・住み続けたいまち「熊本市」にするために必要なこと

ウェブアンケートは議会広報委員会に所属していた時に提案しました。生徒は「GIGAスクール構想」により慣れているので、学校側の理解があれば、思ったより簡単にできます。



田中 敦朗議長
(令和5年7月時点)

はじめたきっかけ

議会広報の取組を検討する議会広報委員会において、更なる議会広報活動の充実について検討を行う中で、市民に対し市議会の理解促進等を図ることを目的に、令和3年度に実施を決定した。

開催に向けた準備

教育委員会事務局への共有

- 事務局が教育委員会事務局に開催について説明、開催する学校について相談

学校との調整

- 議会広報委員会委員長と事務局が学校に出向き、意見交換会の趣旨及び当日の進行方法等について説明・協議、並びに熊本市議会に関するアンケートの実施依頼

議会の段取り

- 運営方法等について、議会広報委員会の下部組織の作業部会で議論した後、議会広報委員会にて決定
- 議会広報委員会で決定した内容を議会運営委員会に報告

報道対応

- 市政記者クラブへ当日の開催概要を提供し、取材を希望する場合の連絡依頼
- 開催日は学校に事前連絡の上、撮影や取材対応

工夫点・留意点

意見交換の運営

- 高校で開催する場合は、選挙権を得る1年前の2年生と行いたいと依頼している。
- 議員や学生を少人数(議員2~3名・生徒4~5名)のグループに分け、配席を口の字にした上で、最初にアイスブレイクを行うなど、生徒が話しやすい工夫をしている。
- 議会として回答が困難な意見は、執行部の所管課につなぐなど、議員への通常の陳情と同じ取扱いとしている。

アンケート項目の選定

- アンケートの項目は、議会や議員を広く知ってもらう項目、また恐らく結果がよくないと予想される項目をあえて選定している。
- 意見交換実施後に参加生徒にアンケートをして、意見交換前と後の認識等について確認している。

取組の効果・今後の展開

- 事前アンケートと意見交換に参加した生徒への事後アンケートでは、議会への認識に前向きな変化がみられるため、一定の成果と捉えている。
- 今後は、県立や私立の高校とも意見交換を実施していくために、関係団体にアプローチしていきたい。
- 若者の政治離れ等が指摘される中、議会や議員及び政治等への興味・関心を向上させるため、引き続き若い世代との意見交換会を軸に、令和5年度から開始した高校生議会等、様々な取組を積極的に進めていきたい。

開催内容(令和5年度の例)

日時	令和5年10月23日(月) 16:00~17:00	日程	①議長・校長挨拶 ②議員自己紹介・各グループで生徒自己紹介 ③熊本市議会について(DVD放映) ④市長への政策提言(生徒会長報告) ⑤3グループに分かれてのグループトーク ⑥議会広報委員会委員長挨拶 ⑦アンケート記入等
場所	熊本市立必由館高等学校		
参加者	議長・議会広報委員…11名 市立必由館高等学校…13名(2年生・生徒会)		



岩手県山田町議会

ふるさと探究高校生議会

議会データ
(令和5年7月)

人口:14,354人
議員定数:14名、現議員数:14名(男性12名、女性2名)
事務局職員数:3名
議会費:91,033<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 高校の「ふるさと探究」事業の集大成として高校生議会を町全体で協力実施
- 生徒は地域の課題を「考える」「調べる」「対話する」「見る」という段階的な過程を丁寧に踏みながら、各グループで検討を行った上で、高校生議会において解決策を質問・提案
- 中学生との意見交換会はコロナ禍において生徒自身の生の声を聴取するとともに、政治・議会を身近に感じてもらうきっかけづくりとして臨時開催

高校生議会当日の日程(令和4年1月18日)

- ①開会
- ②主催者あいさつ(山田高校校長)
- ③町長あいさつ(山田町長)
- ④趣旨説明(山田高校担当教諭)
- ⑤一般質問(次の8つのグループごとに議員役1名及び補佐役1名がそれぞれ質問)

グループ名	主な質問内容
子ども・健康	町民の塩分摂取量が高いため減塩に向けた今後の取組は
教育・文化	山田高校にも給食を提供しては
防災・減災	小中高校と町で避難訓練を開催しては
災害伝承(碑の記憶)	災害の教訓を刻んだ石碑の周知を
福祉	なかよし公園のバリアフリー化を
税務・人口減少	ふるさと納税の返礼品で山田の魅力発信を
農林・水産・観光	養殖が始まっているトラウトサーモンのブランド化は
都市計画	7つある廃校舎を体験型施設にしては

- ⑥議長講評(山田町議会議長)
- ⑦生徒所感(代表生徒1名)
- ⑧閉会

2.中学生と総務教育常任委員会の意見交換会(令和3年11月17日)

新型コロナウイルス感染症のまん延時に、学校の臨時休校や部活の中止など様々な問題が浮上したことから、生徒にどのような影響が出たのか、コロナ禍において生徒は何を求めているのかなど生徒の生の声を把握し議会活動に生かすとともに、生徒が議会や町の課題を考えるきっかけづくりとして、山田町中学生徒と総務教育常任委員会との意見交換会を開催(令和3年度のみ)

工夫点・留意点

円滑な運営を図る

- 高校生議会では生徒が理解しやすい言葉、内容を心がけ発言している。
- 生徒と執行部との質疑応答に際し、正確な答弁ができるよう参加する生徒から事前に発言要旨を提出してもらうとともに、再質問がスムーズにできるよう生徒に答弁書を事前配布している。

取組の効果

将来の町を担う人材育成につなげる

- 高校生議会で提案のあった一部低地部の利活用が実際に実現するなど成果が上がっている。町の現状・課題に触れることで、将来の議員候補のみならず役場職員のみならず手確保にも期待される。

今後の展開

- 社会情勢の変化に伴い過去に提案された内容の再検証や、議長役など運営する側への登用などさらにステップアップしていきたい。

1.ふるさと探究高校生議会～明日のふるさと「山田」を考える～

きっかけ

- 町内唯一の高校である山田高校の求めに応じて山田町及び山田町議会がその趣旨に賛同し平成31年から毎年1回実施
- 平成27年の公職選挙法の改正により、選挙権年齢が引き下げられたこともあり、政治的事象を扱うことの重要性が一層増しており、主権者としての社会参加意識を高め、震災からの地域の復興と発展に自らの意見を表明する機会を実現するため、議会・教育委員会・総務課が協力

対象生徒

- 山田高校3学年27名。高校生議会において質問をする代表(議員役8名、補佐役8名)は学校側で選定

学校との事前打合せ

- 議会事務局が学校に出向き具体的な内容を協議

事務局職員の役割

- 事務局長:全体の進行を管理、主事:学校との調整、一般質問内容精査、資料づくり

議会だより

- 終了後に上記取組のみを扱った特別号として作成・配布

高校生議会に向けた事前の学び

①考える

生徒は各グループに分かれ、町の課題を見出し、その解決に向けた過程を考える

②調べる

グループごとに設定したテーマのもと、校外調査でインタビューやアンケート、実施検証を行う

③対話する

山田町職員とのワークショップで課題の解決策を探る

④見る

山田町議会を傍聴し、議員と執行部との質疑応答などを見て、議会のしくみを学ぶ

高校生
議会へ



宮城県大和町議会

これからの大和町議会のあり方プロジェクト

議会データ
(令和5年7月)

人口:27,956人
議員定数:18名、現議員数:18名(男性16名、女性2名)
事務局職員数:4名
議会費:135,869<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 令和2年の町議会議員選挙において投票率が初めて50%を下回ったことを受け、なり手不足問題の解消と議会活性化を目的に、令和3年より2か年に及ぶプロジェクトが始動
- 生徒・学生を含む参加者はゼミナール研究員として、セミナー、ワークショップ、模擬議会を段階的に実施
- これからの議会と議員のあり方を住民と考える本プロジェクトは主権者教育の要素も含まれている。

1.これからの大和町議会のあり方プロジェクト(セミナー・ワークショップ)

概要

①セミナー(講義)

議員・議会の理解を深めるためセミナーを開催し、議会・議員制度を学習。講師は、議会・議員制度についての各種専門家(大学教授、新聞社、社会保険労務士等)に依頼。議長・事務局は、講師と協議し、セミナーのテーマを設定。これまでに「今後の地方議会のあり方を考える」、「これからの議員制度」、「議員を取り巻く社会状況」、「ライフステージと経済」などのテーマで実施

②ワークショップ(参加型講義)

セミナーで学んだ内容を踏まえ、「議員・議会に求めるものは?」、「議員になるための課題の抽出・分析」、「立候補への課題を解決できるか」など、課題の洗い出しと解決に向け議論を重ねる。その結果を「私たちの議会」というテーマのもとにプロジェクトの最終日に発表

開催に向けた準備等

きっかけ

- 令和2年の町議会議員選挙において投票率が初めて50%を下回ったことを受け、令和3年度に議長がなり手不足問題の解消と議会活性化のため、これからの議会制度や町の課題について話し合いを重ねる企画を特別委員会が発表し、実施に至る。

学校等の選定

- 学生…3名(町内にある公立学校法人宮城大学)
- 生徒…3名(町内にある県立黒川高等学校)
- その他…18名(一般住民)

参加議員の選定

- 議員からワーキングチーム(7名)を選出し運営対応(R4年度ワークショップは全議員が出席)

学校等との事前打合せ

- プロジェクトの趣旨説明、ゼミナールへの参加協力依頼(議長、事務局)

事務局職員の役割

- 関係者との連絡調整、資料作成、当日の議会運営、全体の進行管理

報道等対応

- 地元新聞社へ開催概要を事前提供し、開催後に議長、参加議員及び生徒が取材対応
- 当プロジェクトの広報誌を作成。町内全戸への配布及び議会報告会を開催

2.これからの大和町議会のあり方プロジェクト(ゼミナール議会)

概要

ゼミナール議会(模擬議会)

研究員により組織するゼミナール議会を開催。研究員のうち6名が選出され、ワークショップのなかで議員と共にまとめた町政の課題を一般質問として実際の議場で町長や教育長に問う。更に「未来ある子どもたちに誇れる開かれた議会とまちづくりを求める決議」の決議文を議決。終了後には講師からの講評を受ける。

開催に向けた準備等

参加者

- 学生…3名(公立学校法人宮城大学)うち1名が一般質問
- 生徒…3名(県立黒川高等学校)うち1名が一般質問
- その他…14名(一般住民)うち4名が一般質問

当日の流れ

- ① 控室にて事務局から当日の流れを説明、議席番号の抽選
- ② 本会議場で、開会セレモニー…議長、町長から挨拶
- ③ 議会開会…会議録署名議員の選任、議会期間の設定
- ④ 一般質問…生徒・学生・住民(6名)が町の課題について執行部に一般質問
- ⑤ 決議文議決…模擬議員(20名)が「未来ある子どもたちに誇れる開かれた議会とまちづくりを求める決議」の決議文を議決
- ⑥ 感想発表…参加者から感想発表
- ⑦ 講評…講師(大学教授)から講評。閉会

参加議員の選定

- 議員からワーキングチーム(7名)を選出し運営対応(当日は議員全員が出席)

学校等との事前打合せ

- 模擬議会の開催に向け実施説明、協力依頼(議長・チームリーダー・事務局)
- 模擬議会の開催文書依頼(議長・チームリーダー・事務局)

事務局職員の役割

- 関係者との連絡調整、資料作成、当日の議会運営、全体の進行管理

報道等対応

- 地元新聞社、テレビ局へ開催概要を事前提供し、開催後に参加議員及び生徒が取材対応
- 当プロジェクトの広報誌を作成。町内全戸への配布及び議会報告会を開催。

3.議場見学

町内の小学校3年生約120名を対象に校外学習の一環として実施

工夫点・留意点

議員によるサポート

- ワークショップでは、参加者が発言しやすいよう、議員は聞き役に徹する。
- 模擬議会での一般質問は、参加者と議員が協力して作成。また一般質問作成の際に執行部との応答手法を議員が指南

偏りのない参加メンバーの募集

- 学校以外の参加者が偏らないように町内の各種団体に参加を依頼。年代(10代から70代)や男女比(1:1)にも留意

取組の効果・課題

議会・議員と住民の相互理解の促進

- ワークショップ・セミナーでは、住民目線での議会・議員の課題が洗い出された。また、ゼミナール議会では議員体験を通して議会・議員活動への理解が深まった。

政策提言へとつながる議論

- 議員のなり手不足問題の解消策として、27年ぶりの議員報酬6万円増改定と会議規則等の改正につながった。



埼玉県小川町議会

町内全小中学校へ議員による出前講座

議会データ
(令和5年7月)

人口:27,971人
議員定数:16名、現議員数:16名(男性14名、女性2名)
事務局職員数:3名
議会費:120,147<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 教育委員会と連携し、同委員会主催の子供議会の開催前に事前学習授業として議員による出前講座を実施
- 町内全小中学校へ全議員が分担して出向き、町民が選挙により議員を選ぶ仕組み等について説明するとともに、必要に応じて教員から児童・生徒へ問いかけを行ってもらうなど双方向の授業展開を図っている。

開催実績(令和4年度)

回数	13回 7月4日(小学校2回)、7月5日(小学校1回・中学校1回)、7月6日(小学校)、7月7日(小学校2回)、7月8日(中学校)、7月12日(中学校2回)、7月15日(中学校3回)
日程	①出席議員自己紹介 ②作成資料を使用した小川町議会の説明 ③児童・生徒との質疑応答 ④議員の感想発表

参考…子供議会の開催(令和4年10月18日)

子供議会は令和4年10月18日に開催。同議会は町内3中学校の中学3年生及び5小学校の小学6年生がそれぞれ各校2人、計18人が子供議員として選出され、当町の特色ある教育「おがわ学」を土台に一般質問を行った。その模様は各学校へライブ配信している。

工夫点・留意点

授業の均一性確保に配慮し資料作成

- 授業で使用した資料は、埼玉県議会が小学生の県議会見学用に作成したパネルデータの提供を受け、「皆さんと町議~町議会の仕事~」という模造紙1枚の図解資料で、各議員が統一して使用することにより授業の均一性確保に努めた。
- 議員全員のメッセージ資料「皆さんの未来のために小川町議会16人頑張っています!」を作成し、全児童・生徒に配布

出前講座の進め方を工夫

- 学年や学習状況に合わせて、分かりやすい説明とするよう意識
- 出前講座の全時間を議員が使うのではなく、必要に応じて教員から児童・生徒への問いかけを行ってもらうなど双方向の授業展開を意識

政治的中立性の確保

- 議員は所属の政党や会派の主張を出さず、政治的中立性を確保しながら質疑に対応

議会広報紙への掲載・配布

- 議会広報紙「おがわざかい」では子供議会特集を組み、出前講座写真の掲載や子供議会の一般質問及び担当教員、保護者のコメントを掲載し、広く町民にお知らせするとともに、学校にも配布

取組の効果・今後の課題

地方自治を身近に感じる場

- 中学生からは、「公民の授業の前に理解を深められた。肌で感じられた」「これまで議会や政治に興味なかったが、議員の話を通じて興味が出た」等の感想が寄せられ、地方自治を身近に感じてもらえる場となっている。

議員にとっても貴重な場

- 質疑応答では、選挙費用や支持層、議員の仕事や報酬などの質問が出たほか、町の事業内容など町政全般について活発な質問・要望があり、各議員が交代で丁寧に回答

- 議員としても自らの議員・議会活動に生かせる貴重な場となっている。

今後の課題

- 議会の広聴活動の一環として、今後は数年ごとの子供議会開催年以外にも定期的に出前講座を実施していくべきとの意見が出ている。

1.町内全小中学校へ議員による出前講座

きっかけ

- 令和4年10月18日に予定されていた教育委員会主催の子供議会(数年に1度)に向け、教育長から議員の出前講座について議長に依頼があり、全員協議会において了承
- 子供議会は町内小中学校から18人の子供議員が選出されるが、子供議員だけでなく、多くの児童・生徒が関わる形で町議会議員に質疑・質問をすることにより地方自治を学ばせたいとの教育現場の意向を受け、連携して出前講座を実施することとした。

開催に向けた準備

対象生徒

- 町内全小学校(5校)の6年生全員(7クラス)合計175人
- 町内全中学校(3校)の3年生全員(6クラス)合計164人

授業科目

- 小学校…総合的な学習の時間
- 中学校…社会科(公民分野)

テーマの設定

- 町民が選挙により議員を選ぶ仕組み、議会の構成、議会の役割、議会と町執行部の関係等について説明

参加議員の選定

- 全議員(16人)を希望により各回へ割り振り、1班4~5人体制としている。

事前の情報共有

- 全員協議会において授業の進め方や資料内容等について情報共有を図っている。

事務局職員の役割

- 資料作成補助、議員出席割振表作成、教育委員会との事前協議

報道対応

- 埼玉新聞社に開催概要を提供、7月15日東中学校での出前講座の取材を受ける。

東京都新島村議会

小学生議会体験・高校生新島研究

議会データ
(令和5年7月)

人口:2,471人
議員定数:10名、現議員数:10名(男性8名、女性2名)
事務局職員数:3名
議会費:65,262<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 学習指導要領など学校側の事情を汲み上げ、『総合的な学習(探究)の時間』ほか社会科など授業の一環として実施
- 小学校では、座学の出前講座、議場を用いた対話型授業、議員体験等を三段階で実施
- 高校では、地域探究学習として、議員ヒアリング会・小論文への講評を実施

1.小学生 議会体験(令和3年度の例:新島の未来を考えよう!)

概要

- 1 議会を学ぶ(出前講座)**
出前講座(座学・対話型授業)で議会概要(どのようなことを話し合っているのか、どんな人が議員になれるのか等)を担当議員が事前説明
- 2 議員と学ぶ(議場体験と議員交流)**
議員への事前質問(議員になろうと思ったきっかけ、嬉しかったこと、大変な仕事、地域の課題や未来等)を中心に回答した。令和3年度は議場で議員との質疑応答形式。令和5年度は議場体験後にワールドカフェ形式で5テーブルに分かれた談話形式
- 3 議員体験を通じて学ぶ**
令和3年度は児童が地域課題を調査後に、こども議会として議場で村長に質問・提案

開催に向けた準備等

きっかけ

- 令和3年度に新島小学校6年生の担任から議長に打診があり、担当議員1名(大学教員や地域教育事業の経験がある)を交えて相談を開始

学校の選定

- 新島、式根島の2島からなる当村には小学校は各島に1校あり、学校教員からの依頼に対応。令和3年度、令和5年度とも新島小学校(6年生)からの依頼で実施

参加議員の選定

- 授業形態に沿って人数を決定、全員協議会で有志での参加を呼びかけ(ほぼ全員参加)

学校との事前打合せ

- 対面打合せ(2回)を議会事務局にて実施。このほか担当議員と担当教員はメール等を活用し資料や進捗状況を細かく共有

事務局職員の役割

- 会議全般の立会・会議室提供、出前講座の立会(議員の個人的な発言等を防ぐ)、講義スライドの情報提供・事前確認、議会体験の事務的対応

議会だより

- 終了後は上記取組を議会だよりに掲載するとともに参加児童全員に配布

2.高校生 新島研究

概要

令和3年度に実施した議員定数の削減・維持の住民公聴会やそれに関する資料を材料に、地元高校生の地域探究学習の一環として令和4年度に実施

1 議員ヒアリング会

高校生から指名された議員が高校を訪問し、議員定数の削減・維持に関するインタビューを2部屋に分かれて行った。各部屋では生徒2~3名と議員2名(交互に対応)で実施。後日、生徒は維持・削減に分かれて討論を実施

2 高校生小論文への講評

1により高校生は小論文をまとめ、議会側では生徒の小論文を踏まえ、フィードバックを兼ねた最終講座を総務常任委員長が高校を訪問し講義

開催に向けた準備等

きっかけ

- 担当議員1名(議員就任前に現代社会・地域総合のゲスト講師経験多数)が、総務常任委員長として中心になって実施した「議員定数の削減・維持」に関する資料公開、公聴会の様子を踏まえて、高校担当教員から依頼を受ける。令和4年10月、総務常任委員会において上記取組に関する合意を行い実施

参加生徒

- 新島高校において「新島研究」の授業を選択した7名程度

参加議員の選定

- 事前資料を読み込んだ上で、高校生がヒアリング対象の議員4名を選定

学校との事前打合せ

- 対面打合せを議会事務局や高校にて実施。このほか担当議員と担当教員はメール等を活用し資料や進捗状況を細かく共有

事務局職員の役割

- 会議全般の立会・会議室提供、出前講座の立会、講義スライドの事前確認(議員の個人的な主張にならないよう確認)

議会だより

- 上記取組を議会だよりにより一部掲載

工夫点・留意点

個人の知見と議会全体のバランスをとる

- 担当議員及び担当教員の個人に依存する傾向が強いため、個人の知見・経験の持ち出しと議会全体の合意のバランスをとることに留意している。

政治的中立性・客観性の確保

- 担当議員と担当教員とは、情報と意識を柔軟に共有している。特に有権者を含む高校3年生に対する講師役議員の政治的中立性・客観性の担保を図るため、資料など議会事務局と教員による事前チェックを行っている。

取組の効果・課題

議会・議員体験を通じて学ぶ

- 幅広い学校ニーズ・授業スタイルに柔軟に対応できた点、高校生に関してはデータを元に議論することや異なる立場の意見を総合的に捉え、議員活動を探究として学べる要素を矛盾なく体験してもらうことができています。

地域教育プログラムとして体系化

- 当村ならではの地域教育プログラムとして体系化して組織的に継続していきたい。



愛媛県鬼北町議会

中学生の模擬議会見学会を開催

議会データ
(令和5年7月)

人口:9,365人
議員定数:12名、現議員数:12名(男性11名、女性1名)
事務局職員数:2名
議会費:63,493<単位:千円>



POINT / 取組の概要

- 令和4年11月30日、議会への理解・関心を深め、主権者を育成することを目的に「中学生の模擬議会見学会」を開催
- 全議員12名が町執行部役と議員役とに分かれ、生徒にとって身近なテーマで設定した一般質問及び議案2題について、本番さながらに審議の様子を中学生73名が見学
- 議案の審議にあたっては、10名の代表生徒が議員として採決に参加

当日の内容

- 開会あいさつ
- 議員自己紹介
- 町議会のしくみ:事務局長
- 模擬議会(議員による、採決のみ生徒10名参加)
 - ①開会宣告
 - ②町長招集挨拶
 - ③開議宣告
 - ④議事日程の報告
 - ⑤日程第1 会議録署名議員の指名
 - 〃 第2 会期の決定
 - 〃 第3 一般質問(学校給食費の無償化について)
 - 〃 第4 議案第1号 鬼北町ネット・ゲーム依存症対策条例の制定について
 - 〃 第5 〃 第2号 令和4年度鬼北町一般会計補正予算(第5号)について
 - ⑥議了宣告
 - ⑦町長閉会挨拶
 - ⑧閉会宣告
- 中学生の質問・感想
- 閉会あいさつ:副議長及び生徒会長(2名)

1. 町内中学生による模擬議会の見学会

概要

- 同町では平成31年3月から議会の広聴活動の一環として、年1回程度、高校生、町商工会役員、町PTA役員と懇談会(意見交換)を実施し、今後の議会活動につなげてきた。こうした中、令和4年11月30日、主権者を育成する目的で町内2中学校の生徒を対象にした「中学生の模擬議会見学会」を開催することとした。
- 中学生は、町議会議員及び議会のしくみについて、議会事務局から説明を受けた後、本会議さながらの「一般質問」、「条例の制定」及び「補正予算」に対する質疑・討論のやりとりを傍聴し、議員の役割や議会が審議して意思決定する「議決」の流れを学んだ。
- 模擬議会では、議員12人が町執行部役と議員役に分かれ、「学校給食費の無償化」の一般質問と回答並びに「鬼北町ネット・ゲーム依存症対策条例の制定」及び「一般会計補正予算」の2議案についての質疑や討論を実施し、採決には代表生徒10人も議員として参加

開催に向けた準備

対象生徒

- 広見中学校 3年生…60名
- 日吉中学校 全生徒…13名
- 合計73名(うち10名(生徒会役員)が議員席に着席)

参加議員の選定

- 全員協議会で議員全員12名の参加を決定。それぞれの役割も全員協議会で協議し確認

事務局職員の役割

- 企画、資料作成、教育委員会や議員との連絡調整、全体の進行管理

学校との事前打合せ

- 事務局が学校へ出向き、見学会の趣旨及び当日の進行を説明。参加生徒へは資料を配布

報道対応

- 地元新聞社へ開催概要を事前提供、開催後に議員・生徒が取材対応。議会広報紙にも掲載

工夫点・留意点

発達段階に応じた取組みの実施

- 当初の計画段階においては、中学生との意見交換会の実施を検討したが、教育委員会との協議の中で、中学生段階では地域の課題に対し自分の意見をまとめて発言する意見交換は難しいと判断。まずは、議員や議会に対する理解、関心を深めてもらうことが効果的であると考え、模擬議会見学会とした。

中学生に身近な問題をテーマとして設定

- 一般質問では町政課題の中から、生徒が意見交換しやすい「学校給食費」を、議案では中学生が当事者となるような社会問題である「ネットゲーム依存症」をテーマとして設定した。

運営方法の工夫

- 議員が教育長など執行部役も務め答弁している。
- 中立性を保てるように事前に多様な意見を情報収集し、模擬議員に資料を提供
- 模擬議会終了後に中学生から町に対する要望等の意見をいただく場を設けている。

取組の効果・課題

生徒・議会の双方にとって貴重な場

- 中学生からは議会を身近に感じ、政治・社会について関心をもつことができたとの感想が寄せられている。
- 中学生からは「普段自由に使える広場等の遊べる場所が欲しい」や「若者が地域に残れる対策はないか」との意見があり議会としても貴重な場となった。

今後の主権者教育の展望

- 中学生に対する主権者教育は、議員や町議会に対する理解、関心を深めてもらい、生徒自らが地域社会の課題に対して調査し、考えることができるような取組を実施していきたい。
- 高校生に対する主権者教育は、地域社会の課題に対して自分の考えをまとめて意見を述べるができるよう、意見交換会の開催なども検討していきたい。
- 中学生から高校生まで継続的な主権者育成の仕組みづくりを教育委員会等と緊密に連携して検討していきたい。



おわりに

■こどもたちの記憶に残る主権者教育を

地方においては、人口減少と少子高齢化が急速に進行しており、地域の活力が低下し、様々な社会的・経済的な課題が生じています。

特に、近年、自治会や町内会における加入率の低下など住民の自治意識の希薄化が指摘されており、議会に対する関心も低下してきています。

こうした中で、未来の地域を担うこどもたちに、地域活動への参加、地域づくりへの参画に興味・関心をもってもらうとともに、「地域の多様な民意を集約し、広い見地から個々の住民の利害や立場の違いを包摂する地域社会のあり方を議論し、地方公共団体の意思を決定する議会の役割について理解してもらうことが主権者教育としては非常に大切なことであり、民主主義や地方自治の根幹をなす存在である地方議会が、主体的に率先して取り組んでいく必要があると考えています(「」内は第33次地方制度調査会答申(令和4年12月28日)より引用)。

主権者教育は、平成28年6月の選挙権年齢の18歳への引下げ以降、国においては総務省と文部科学省によって進められ、地方では教育委員会、選挙管理委員会など関係機関により進められていますが、全国都道府県議会議長会が行った調査では、令和5年に、地方議会と連携して主権者教育を実施した学校は、回答があった16,124校のうち約4%にとどまっています。

こうした結果も踏まえ、掲載した事例も参考に、各議会が学校と連携し、工夫をしながら主権者教育にお取り組みいただき、その取組が全国に広く展開して欲しいとの願いから、今回事例集を取りまとめることといたしました。

この事例集では、地方議会が進める主権者教育について、都道府県の10事例、市の8事例、町村の5事例合わせて23事例を紹介しています。

都道府県の10事例では、議員が学校を訪問し、こどもたちに議会の役割や仕組みを教えるとともに意見交換等を行う「出前講座」(7事例)、こどもたちが議会を訪問し、模擬的な議会を体験してもらう「模擬議会」(3事例)の取組を掲載しました。

また、小学校、中学校、高校、大学と発達段階に応じた取組を幅広く掲載するとともに、「出前講座」の高校生を対象としたものの中に特別支援学校での取組(群馬県議会(10～11頁)、宮崎県議会(16～17頁))、「模擬議会」の小学校を対象としたものの中に親子で参加する取組(岩手県議会(22～23頁))も掲載しました。

市の8事例では、小学校、中学校、高校の「出前講座」を中心に掲載しましたが、議場見学や議会傍聴と併せて開催した取組(北海道登別市議会(28～29頁)、長野県伊那市議会(30～31頁))、模擬議会と併せて開催した取組(茨城県取手市議会(34～35頁))も掲載しました。

また、意見交換を行った高校生44名が、「高校生でも使えるデマンドバス学割など移動手段の検討」や「Instagramなど若い世代への更なる湖西市の情報発信」など5項目を請願書に取りまとめ、議会に提出し、定例会で採択された取組(静岡県湖西市議会(36～37頁))などを掲載しました。

町村の5事例では、小学生、中学生、高校生、大学生を中心とした「出前講座」と「模擬議会」の取組を掲載しました。

また、町議会議員選挙の投票率が初めて50%を下回ったことを受け、議員のなり手不足問題の解消と議会活性化を目的に、高校生や大学生に加え一般住民も巻き込みワークショップなどを開催した取組(宮城県大和町議会(46～47頁))や、こどもたちの発達段階に応じ、小学校では議会体験、高校では地域探究学習の一環として議会研究を行ってもらう取組(東京都新島村議会(50～51頁))などを掲載しました。

各事例(8～53頁)には取組の効果も併せて掲載しましたが、こどもたちからは議会・議員を身近に感じ、興味・関心が湧いたとの意見や議員からは若い世代の声を聞く貴重な機会となったとの意見などがあり、双方から肯定的な意見が多く見られました。こうしたことから、今こそ議会が主体的となって、主権者教育を推進していくことが重要であると考えています。

各議会では、令和5年4月の地方議会の役割及び議員の職務等を明確化する地方自治法の改正を踏まえ、議会活動の更なる改革を進めるとともに、住民の議会に対する関心を高め、理解を深めていただく活動に取り組んでおられることと思います。

住民の自治に対する意識の希薄化という民主主義の危機に対応するためには、未来の地域を担うこどもたちの記憶に残る主権者教育を行っていくことが必要であり、三議長会では、主権者教育を国民運動として推進していますが、学校での限られた授業時間など、こどもたちや教員の実情も踏まえ効果的に取り組んでいく必要があります。

議長をはじめ各議会の皆様におかれては、先頭に立って教育委員会、選挙管理委員会など関係機関と連携し、主権者教育を進めていただきたいと存じますので、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、今回、事例掲載に御協力いただきました各議会の皆様に深く感謝申し上げます。

令和6年6月
全国都道府県議会議長会
全国市議会議長会
全国町村議会議長会

地方議会が進める 主権者教育事例集

発行 令和6年6月28日

◇編集・発行

・全国都道府県議会議長会

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館5階
TEL. 03-5212-9155
HP <https://www.gichokai.gr.jp/>



・全国市議会議長会

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館6階
TEL. 03-3262-5234
HP <https://www.si-gichokai.jp/>



・全国町村議会議長会

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 全国町村議員会館4階
TEL. 03-3264-8181
HP <https://www.nactva.gr.jp/>



◇デザイン・印刷 株式会社コア